

- 抗菌體內毒素 二四
- 抗自家溶解素 七
- 抗過敏性 一四六
- 抗過敏性ノ特異 一四六
- 抗過敏性ノ例 一四四
- 固定毒 一〇六
- 固形毒素 三三
- 拘菌素 四、一〇、三三
- 鼓舞素 二六
- 骨膜炎ノグアクリン療法 一七
- 畢丸炎ノグアクリン療法 一七
- 衡量對照 三四六
- ざいてんけつてん (側鎖ヲ見ヨ)
- 細胞素 九、六
- 細胞體溶解作用 五一
- 細菌ノ運動 一六五
- 細菌ノ毒素 三〇
- 細菌ノ毒性減弱 七
- 細菌ノ毒性増強 七
- 細菌増殖率 一九
- 細菌探知法 一六五
- 細菌染色法 一六六
- 細菌體ノ防禦裝置 五
- 細菌性赤痢ノグアクリン療法 一七
- 瘡瘡ノグアクリン療法 一七
- 再歸熱 全
- 再歸熱ト凝集反應 一三一
- 再歸熱波菌檢査法 一七八
- 再歸熱血清効價檢定 八六
- 再歸熱血清製法 八五
- 產熱熱ノグアクリン療法 一八
- 產熱熱血清療法 八三、八四、八五

- 殺菌素 五一
- 殺菌性免疫血清製法 七
- 殺菌性血清ノ醫治作用 八〇
- 殺菌性血清ノ効價檢定法 七
- 尺度對照 三四三
- じゆんでる養基 一七一
- 人化牛痘苗 一〇
- 人工的襲撃素 二三
- 人工的過敏毒素 一四三
- 人體ノ防禦機關 二
- 子癩ノ原因 一四七
- 子宮内膜炎ノグアクリン療法 一八
- 子宮頸管加答兒ノグアクリン療法 一八
- 小細胞素 九
- 小喰細胞 九
- 刺戟素 八、一〇、一一
- 自然免疫 二五
- 自愛自衛 一
- 自家抗媒介體 七
- 自家血清療法 一五
- 自家毒細胞素 七七
- 自家溶解素 七
- 床壁消毒法 二二七
- 消毒藥 二六
- 消毒方法 二五
- 消耗熱血清療法 八四
- 喰儘作用 九、二〇
- 喰儘細胞 九
- 喰儘細胞説 九
- 上顎齶蓄膿症ノグアクリン療法 一七
- 浸水後清潔方法 三〇七
- 種痘法 一九



種痘規則 二四四  
 種痘施術心得 二四六  
 種痘ノ注意 二五一  
 種痘ノ適否 二四七  
 種痘ノ方法 二四七  
 種痘ノ善感不善感ノ鑑別 二四九  
 種痘善感ノ徵候 二四九  
 種痘不善感ノ徵候 二五一  
 昇汞水 二二七  
 死體消毒法 二二〇  
 屍體運搬法 二二〇、二二六  
 食傷ノ原因 二二五  
 準備體 二二  
 觸接喰菌 二三  
 襲撃素 一二三  
 襲撃素ト菌體內毒素トノ異同論 二二一、二二四

受體 一  
 受體ノ作用 一、二  
 受凝性物質 三二  
 受凝性物質ノ構成 三三  
 受凝性物質ノ性状 三三  
 心内膜炎ノぐあくちん療法 二七  
 猩紅熱血清療法 八三、八四、八五  
 腎盂兼腎實質炎ノぐあくちん療法 二七  
 除鼠的消毒方法及清潔方法施行手續 二八三、二九七  
 市町村ニ設置スベキ避病院管理方法 二三五  
 市町村ニ設置スベキ避病院設備標準 二三五  
 所得税法 三五六  
 すちむりん (刺戟素ヲ見ヨ)  
 すこらうす馬鼻疽反應 一七五  
 すべるまごきしん (毒精蟲素ヲ見ヨ)  
 水槽消毒法 二二二

鬚瘡ノぐあくちん療法 二七  
 せんじびりじん (銳敏素ヲ見ヨ)  
 赤痢桿菌 一五五  
 赤痢血清 八  
 赤痢血清療法 八一  
 赤痢免疫血清効價檢定法 一〇四  
 赤痢ト凝集反應 一三一  
 赤痢豫防接種効價 一〇四  
 赤痢豫防接種苗製法 一〇三  
 赤痢豫防接種法 一〇三  
 清潔方法 二二四  
 世界ノ人口 二八八  
 先天性過敏症ノ例 一五四  
 生石灰 二二八  
 生石灰末 二二八、三〇三  
 生體抗體 一四三

石灰乳 二二八、三〇三  
 石炭酸水 二二六、二六三、三〇三  
 石炭酸ふくしん 一六六  
 船室消毒法 二七六、二八八、三〇〇  
 船舶檢疫規則 二七七  
 船舶檢疫手續 二七六  
 船底水消毒法 二七六  
 氈毛上皮細胞ノ作用 三  
 精神病診斷法 二五、二六  
 全癒退院時ノ消毒法 二二七  
 纖維醱酵素 二九  
 癬ノぐあくちん療法 二七  
 攝護腺炎ノぐあくちん療法 二七  
 側鎖 三  
 双攝體 三  
 早熟版嶼 一八三



象皮病菌 一八五  
 象皮病血清療法 八五  
 象皮病豫防接種効價 一〇三  
 象及病豫防接種苗製法 一〇二  
 大細胞素 九  
 大喰細胞 九  
 大都會 三五  
 蛋白鑑別法 七三  
 他働的過敏性 一四四  
 體質過敏性 一五四  
 丹毒血清療法 八三  
 丹毒ノがあくちん療法 一八  
 膽囊炎ノがあくちん療法 一七  
 ちたーぜ (細胞素ヲ見ヨ)  
 ちーる液 一六

ちふす血清 九五  
 ちふす血清ノ効力 九五  
 ちふす血清ノ製法 九五  
 ちふす診斷液 一三三  
 ちふす桿菌 一九四  
 ちふす桿菌ノ受凝性變化 二二六  
 ちふす桿菌ノ人體内ニ逗留スル期間 六  
 ちふす桿菌分離法 一六九  
 ちふす桿菌鑑識法 五三、二六  
 ちふすノ過敏反應 一三三  
 ちふす症診斷法 (沈降反應々用) 一三五  
 ちふす症診斷法 (補体結合試験) 七三  
 ちふす増菌液 一六九  
 ちふす治療越幾斯 九五  
 ちふす豫防接種効價 一〇〇  
 ちふす豫防接種苗製法 一〇〇

ちふす豫防接種法 九九  
 ちほいん 六  
 ちふてりー毒素 三  
 ちふてりー毒素ノ性状 三三  
 ちふてりー毒素製法 三三  
 ちふてりー毒素檢定法 三三  
 ちふてりー血清療法 四二  
 ちふてりー桿菌 一九〇  
 ちふてりー桿菌證明法 一七〇  
 ちふてりー桿菌ノ凝集反應檢査 二九  
 ちふてりー桿菌類似菌鑑識法 一七二  
 ちふてりー免疫血清 三三  
 ちふてりー免疫血清製法 三三  
 ちふてりー免疫血清効價檢定法 四〇  
 ちふてりー免疫血清ノ治療効價 四二  
 ちふてりー免疫血清ノ豫防効價 四二

中耳炎ノがあくちん療法 一七  
 沈降原 一三三  
 沈降反應 一三三  
 沈降反應ノ應用 一三五  
 沈降素 一三三  
 沈降素ノ化學的成分 一三四  
 沈降素ノ産出地 一三四  
 沈降素ノ種類 一三四  
 沈降素ノ特异性 一三四  
 中間體 三三  
 遲鈍性 一四六  
 癡呆症 一三六  
 耻垢桿菌 一九〇  
 腸炎桿菌 一九六  
 陳痛ノ原因 一五二  
 陳痛催進法 一五三



- 調理素 二
- 調理素系數 元
- 腸ちふす診斷法 二三
- 腸炎ノぐあくちん療法 七
- 治療用菌液製法 三三
- 帖佐染色液 一七四
- 帖佐ちふす増菌液 一六九
- 地球ノ廣袤 三三七
- つべろくりん反應 一五七
- つべろくりん反應ノ意義 一六一
- 通過毒 一〇六
- 天壽 五
- 天然牛痘苗 一一〇
- 滴量表 三四二
- 纏絡帶 三三
- 纏絡喰菌 三三
- 傳染病ト醫貴 一六四
- 傳染病豫防法 一九九
- 傳染病豫防法施行規則 二〇九
- 傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程 二二二
- 傳染病隔離日時 三三一
- 傳染病患者鐵道乘車規程 三三六
- さきしん (毒素ヲ見ヨ)
- さきそべふちーど 一四四
- さるいちんぶらう液 一七九
- さろびーれ 二二
- 糖尿病ノ原因 二六
- 同種毒細胞素 六六
- 同種溶解素 六六
- 動物性牛痘苗 一一〇
- 痘苗製法 一一〇
- 痘苗採取法 二四七

- 痘苗貯蓄法 二四七
- 痘苗貯藏法 二二
- 毒素 三〇
- 毒素分泌 七
- 毒素ト抗毒素トノ關係 三三
- 毒素ト結合スベキ細胞側鎖ノ所在地 三三
- 毒腺素 五二
- 毒腎素 五二
- 毒肝素 五二、六二
- 毒副腎素 五二
- 毒精蟲素 五二、六〇
- 毒神經素 五二
- 毒氈毛上皮素 五二
- 斗量對照 三四五
- ないぜる小體染色法 一七一
- ないぜる及ぶつくすべろく法 三三
- 軟弱波菌 一七七
- 肉水 一六八
- 肉汁養基 一六八
- 肉質鑑定法 二三五
- 日本ノ周圍 三四七
- 日本ノ面積 三四七
- 日本ノ各市戸口 三四八
- 日本ノ總人口 三五二
- 日光消毒法 三三一
- 妊娠皮膚病ノ原因 一五三
- 妊娠皮膚病ノ療法 一五三
- 乳腺炎ノぐあくちん療法 七
- 熱ノ作用 八
- 熱氣療法 八
- 熱帶熱原蟲 一八二
- 能働性免疫法 六六



- 膿毒症血清療法 八三
- 膿漏性眼炎ノグアクリン療法 八、七
- 膿瘍血清療法 八三
- 腦腫瘍診斷法 五五
- 腦脊髄膜炎球菌 一八七
- 腦脊髄膜炎球菌證明法 一七九
- 腦脊髄膜炎球菌ト凝集反應 一三三
- 腦脊髄膜炎球菌血清効力檢定法 八七
- 腦脊髄膜炎球菌血清製法 八七
- 腦脊髄膜炎球菌血清療法 八八
- ばいふえる現象 五
- ばいべすまいん 一六三
- ばいべすえるんすと異染小體 一七二
- ばらちふす桿菌A 一九五
- ばらちふす桿菌B 一九五
- ばらちふす診斷法 一七
- 版蝨 一八三
- 白血素 四、三
- 白血球ノ作用 四
- 白血球採集法 二〇
- 白血球脾脫疽殺菌素 二三
- 媒介體 三
- 媒介體ノ種類 六
- 媒介體ノ作用 三
- 媒介體ノ發生理由 六
- 媒介體ノ化學的性質 六
- 肺炎鏈菌 一八五
- 肺炎ノ診斷法 二二
- 肺炎原因菌檢査法 一八〇
- 肺炎桿菌 一九三
- 肺炎桿菌ノ凝集反應檢査法 二二

- 肺炎鏈菌血清製法 八六
- 肺炎鏈菌血清療法 八六
- 肺結核豫防法 二六二
- 破關素 一四二
- 破傷風桿菌 一八八
- 破傷風毒素 三三
- 破傷風毒素ノ性狀 三三
- 破傷風毒素ノ毒力 三五
- 破傷風毒素製法 三三
- 破傷風毒素ノ吸收徑路 三五
- 破傷風固形毒素 三三
- 破傷風免疫血清 三三
- 破傷風免疫血清製法 三三
- 破傷風免疫血清豫防効價 三三
- 破傷風免疫血清効價檢定法 三三
- 破傷風免疫血清治療効價 三三
- 馬鼻疽診斷法 一三〇、一三二
- 馬鼻疽桿菌 一九一
- 馬鼻疽桿菌證明法 一七五
- 馬鼻疽桿菌診斷法 一七五
- 馬鈴薯養基 一六六
- 黴毒ノ留水反應 一三八
- 黴毒ノ過敏反應 一三三
- 黴毒診斷法 三
- 黴毒沈降反應 一三七
- 黴毒波菌證明法 一七六
- 黴毒波菌鑑別法 一七七
- 排泄物消毒法 二七、二八
- びっく、やこぶそん染色法 一七八
- びるけー皮膚反應 一五九
- 百日咳桿菌 一九二
- 百日咳桿菌證明法 一七九



人ノ過敏症 一四二  
 皮中反應 一六〇  
 皮膚ノ作用 二  
 表皮反應 一五  
 被動的過敏性 一五  
 被動的免疫法 九六  
 瘰疽ノグロウチン療法 一七  
 鼻毛ノ作用 二  
 病原菌確定法 一九  
 脾脫疽桿菌 一八九  
 脾脫疽桿菌検査法 一八〇  
 脾脫疽豫防接種効價 一〇五  
 脾脫疽豫防接種苗製法 一〇四、一〇五  
 脾脫疽豫防接種法 一〇四  
 避病院管理方法 二三五  
 避病院設備標準 二三三

標準血清 四一  
 標準抗毒素 四八  
 ふあごちーてん (喰燼細胞ヲ見ヨ)  
 ふいきさこーる (拘菌素ヲ見ヨ)  
 ふおるれーしえれしえうすきー沈降反應 二三八  
 ふおるまりん 二二九  
 ふおるむあるでひーと 二二九、三〇四  
 ふるんける (癩ヲ見ヨ)  
 ふおーさまれいん 二六二  
 ふくしん液 一六六  
 ぶらきん (血小板ヲ見ヨ)  
 ぶらすもちうむ 一八二  
 ぶれちぶちん (沈降素ヲ見ヨ)  
 附加素 六一  
 分娩開始原因 二五三  
 分泌液ノ殺菌作用 三

復過敏性 一四六  
 復種牛痘苗 二一〇  
 普通大腸桿菌 一九五  
 普通大腸桿菌ト凝集反應 一三三  
 腐敗物中ノへすと桿菌證明法 一七四  
 葡萄糖凝菜養基 一六八  
 腹膜炎ノ自家血清療法 一二五  
 服藥用量比較表 三四一  
 糞便中ノちふす桿菌分離法 一六九  
 へすと桿菌 一九三  
 へすと菌遞送法 二六二  
 へすと豫防心得 二八三、二八四  
 へすと豫防接種法 九七  
 へすと桿菌證明法 一七四  
 へすと菌取扱取縮規則 二七九  
 へすと豫防接種苗製法 九七

へすと豫防接種ノ効價 九七  
 へすと桿菌ノ凝集反應検査 一三〇  
 へすと血清効力檢定法 九二  
 へすと血清製法 九八  
 へすと血清療法 九〇  
 へばととさしん (毒肝素ヲ見ヨ)  
 へぶとん水養基 一六九  
 べーめ染色法 一六七  
 便所消毒法 三三〇  
 變性毒素 三〇  
 變性補體 三二  
 變性調理素 二  
 へもりじん (溶血素ヲ見ヨ)  
 變性凝集素 一一九  
 變性沈降素 一三三  
 鞭毛染色法 一六五



ぼろけすまいえる沈降反應 一三七  
 ほるもん (鼓舞素ヲ見ヨ) 法令 一九九  
 崩雲素 二二、五一  
 泡沫傳染説 三  
 包膜ノ作用 五  
 防禦素 六二  
 防禦機關 二  
 紡錘狀桿菌 一九二  
 補體 八、三、六六  
 補體ノ性狀 三三  
 補體ノ種類 三三  
 補體ノ產地 三三  
 補體ノ作用 三二  
 補體ノ含有量 三三

補體轉向 三三  
 補體結合順序 三三、三三  
 補體適量檢定法 三三  
 補助體 三三  
 蜂窠織炎血清療法 八三  
 蜂窠織炎ノガあくちん療法 一七  
 發作性血色素尿ノ原因 五五  
 發作性血色素尿ノ療法 六〇  
 膀胱加答兒ノガあくちん療法 一七  
 まくろちたーゼ (大細胞素ヲ見ヨ) まらりや原蟲 一八二  
 まれいん反應 一三三  
 慢性腹膜炎ノガあくちん療法 一八  
 慢性炎性疾病ノガあくちん療法 一七  
 みくろちたーゼ (小細胞素ヲ見ヨ) めちーれんぶらう液 一七四

めんてる反應 一六〇  
 免疫體 六、三三  
 免疫原製法 三〇  
 免疫原適量檢定法 七〇  
 免疫調理素 二  
 免疫血清注射法 四二  
 免疫凝集素 二九  
 免疫凝集素ノ遺傳 二九  
 免疫凝集素ノ消失 二九  
 免疫凝集素ノ特異性 二九  
 面積對照 三四  
 もろ反應 一五九  
 もろがっん 一六二  
 盲腸炎 一七  
 藥疹 一五五

藥品貯藏法 三三八  
 藥品極量表 三三〇  
 藥品純成分含量表 三三五  
 山羊ノ過敏症 一四一  
 郵便規則 三五四  
 溶菌素 五一  
 溶菌作用 五一  
 溶血素 五二、五五  
 溶血素製法 六五  
 溶血作用 五五  
 溶血價檢定法 六六  
 溶蛋素 一四二  
 沃度保爾謨過敏性 一五五  
 沃度沃度加里液 一六七  
 豫防接種法 六六  
 四日熱原蟲 一八二



- 癱ノグアクチン療法 一七
- 癩桿菌 一八九
- 癩桿菌證明法 一八〇
- 癩細胞 一八一
- 癩豫防法 二五二
- 癩豫防法施行期日 二六〇
- 癩豫防法施行規則 二五七
- 癩豫防法第八條ニ依ル國庫補助ノ件 二六一
- 癩療養所設置區域 二五九
- 癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨追徴及負擔 二五五
- 喇叭管炎ノグアクチン療法 一八
- 麻球菌 一八六
- 麻球菌證明法 一七九
- 麻疾ノグアクチン療法 一七
- 麻疾ト熱 八
- 淋巴腺炎ノグアクチン療法 一七
- 流行性感冒桿菌 一九二
- 流行性感冒桿菌證明法 一七九
- 陸軍傳染病豫防法規則 二三八
- るこーる液 一六七
- るーまれいん 二六三
- 類ぢふてりー桿菌 一七三
- れいしまん染色液 二四
- れちちん反應 一三七
- れつえぶさーる (受體ヲ見ヨ) 一七四
- れふれるめちーれんぶらう液 一七四
- れふれる血清養基 一七一
- れふれる鞭毛染色法 一六六
- 鏈菌血清 一八
- 鏈菌血清療法 一八
- 連鎖狀球菌血清 一八
- 連鎖狀球菌血清療法 一八

- ろいきん (白血素ヲ見ヨ)
- ろいこちぢん (崩壘素ヲ見ヨ)
- 老相 三
- 綠石鹼 二二八
- 綠膿桿菌 一九六
- 肋膜炎ノ自家血清療法 二二五
- 露國製まれいん 二六三
- わっせるまん反應 六五
- わっせるまん反應簡便法 七一
- わっせるまん反應ノ特異性 七三
- 我ハ我ヲ愛ス 一



圖八第



脾脫疽桿菌 (阿膠平板培養、押標本、千倍擴大)

圖十第



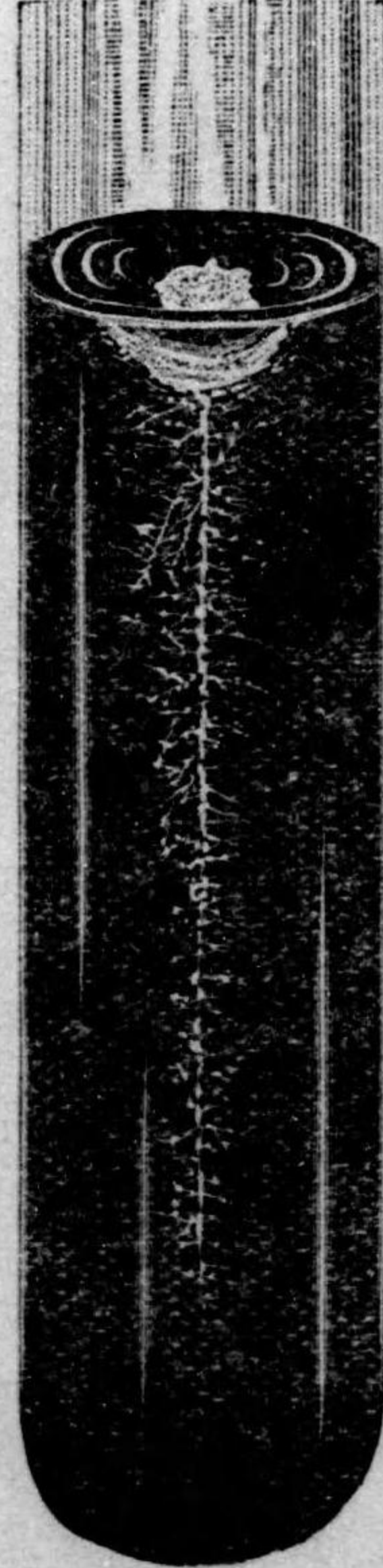
脾脫疽桿菌 (阿膠平板培養、三十三時六十九倍擴大)

圖七第



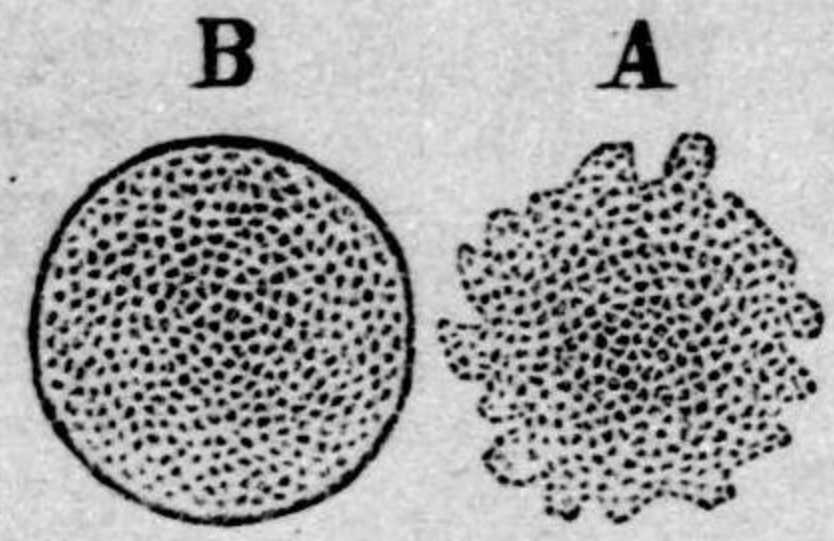
腦脊髓膜炎球菌 (四千倍擴大)

圖九第



脾脫疽桿菌ノ阿膠穿刺培養 (室溫ニテ三日間培養、自然大)

圖一第

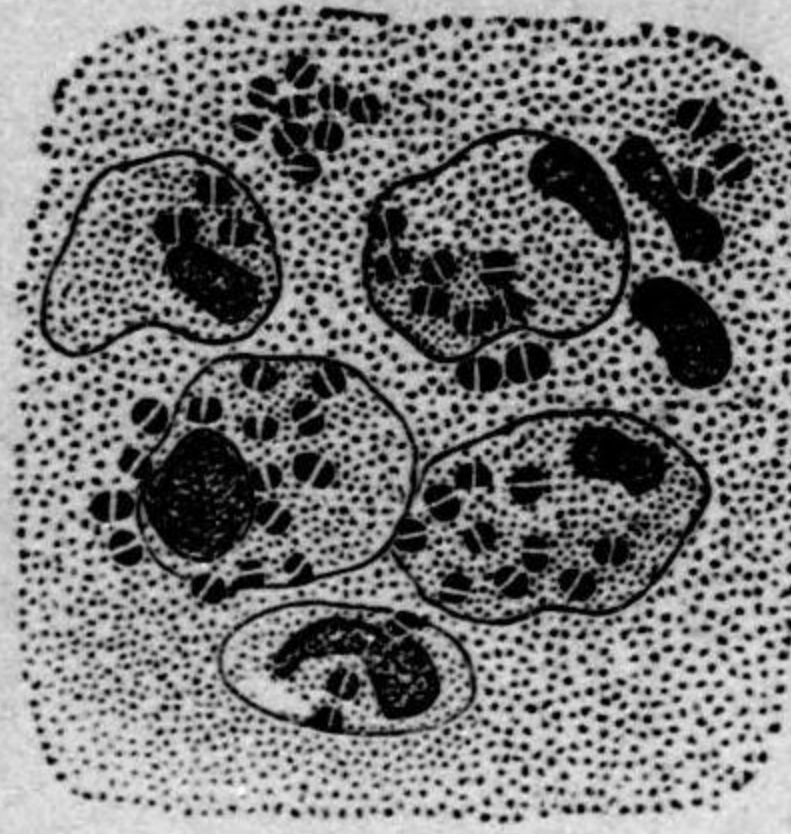


圖二第

肺炎球菌 (肉汁培養、二十四間時、千倍擴大)

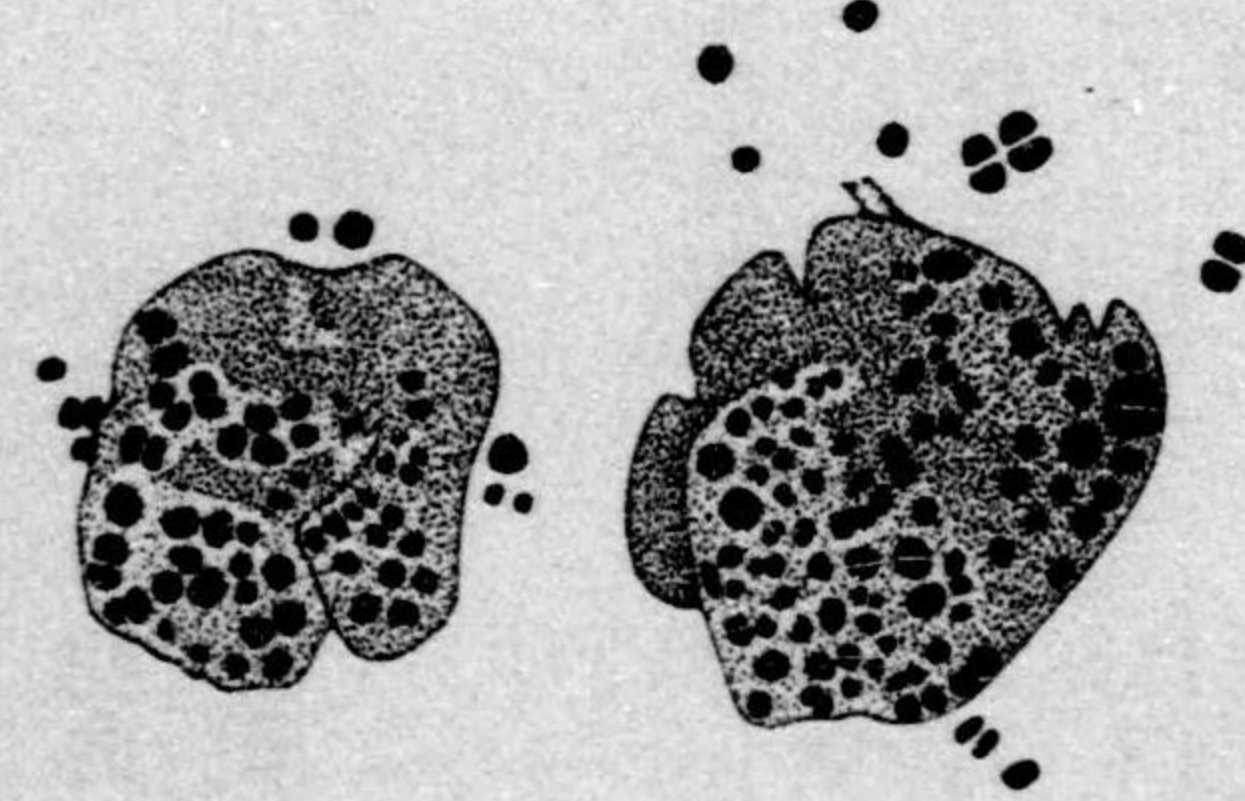


圖五第



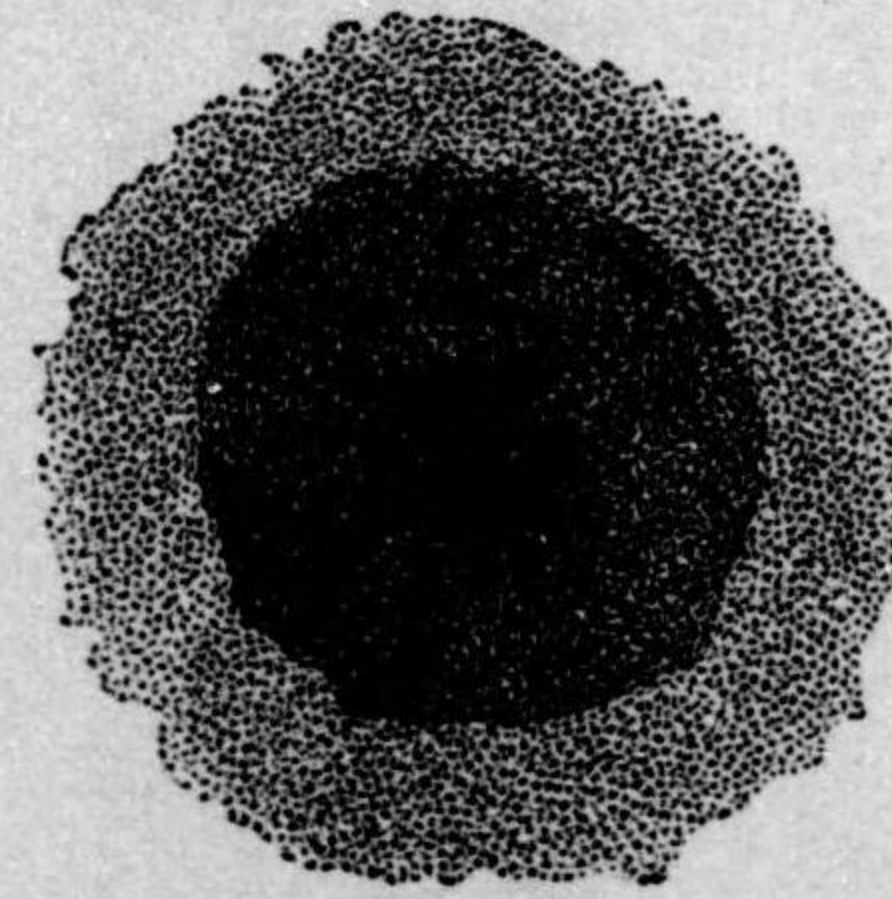
腦脊髓膜炎球菌 (膿塗抹標本、千倍擴大)

圖六第



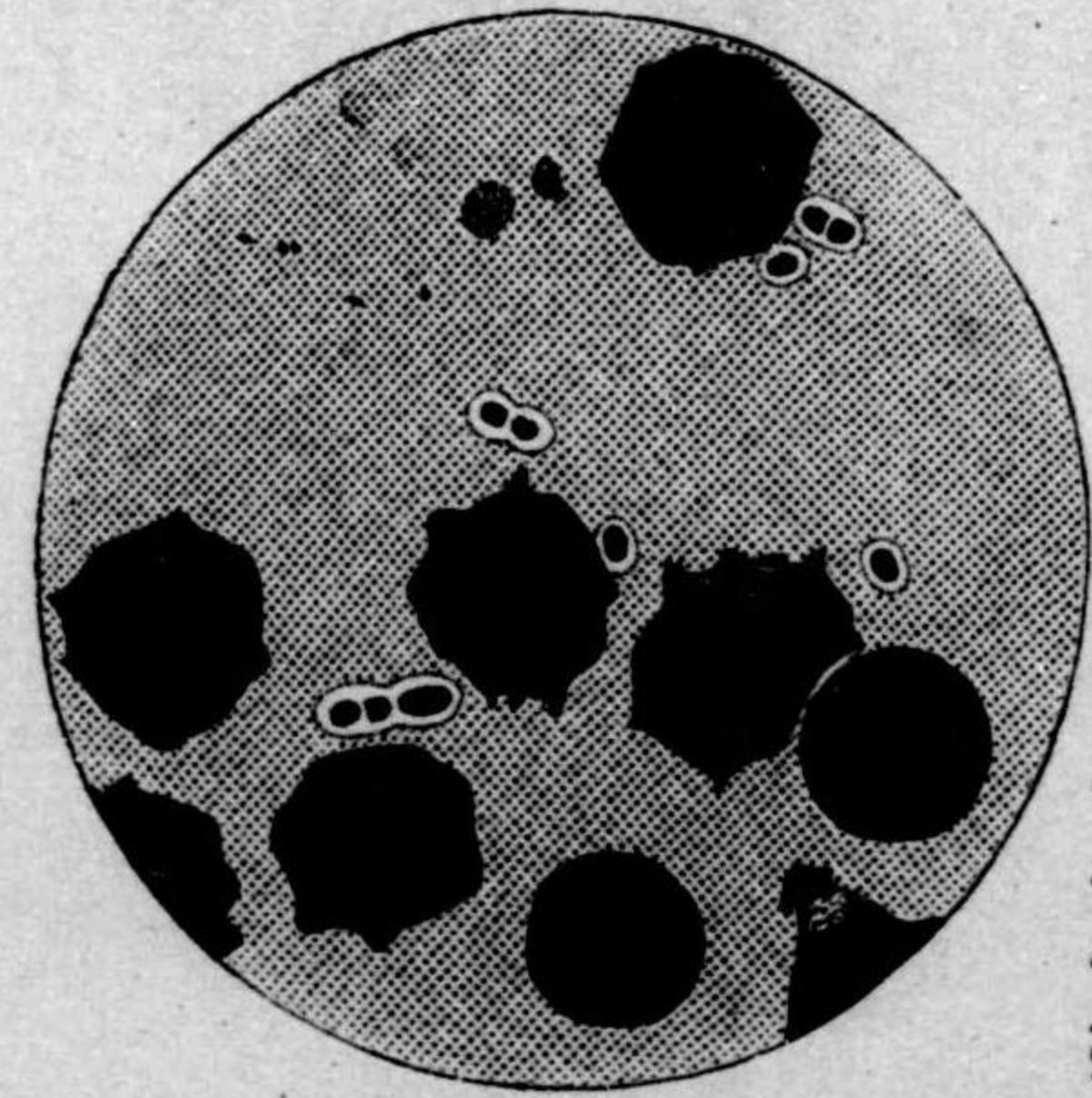
腦脊髓膜炎球菌

圖四第



肺炎球菌 (菜上ノ凝ニ於ケル五落、間培養十日、四倍擴大)

圖三第



肺炎球菌 (家兔血液標本、千倍擴大)

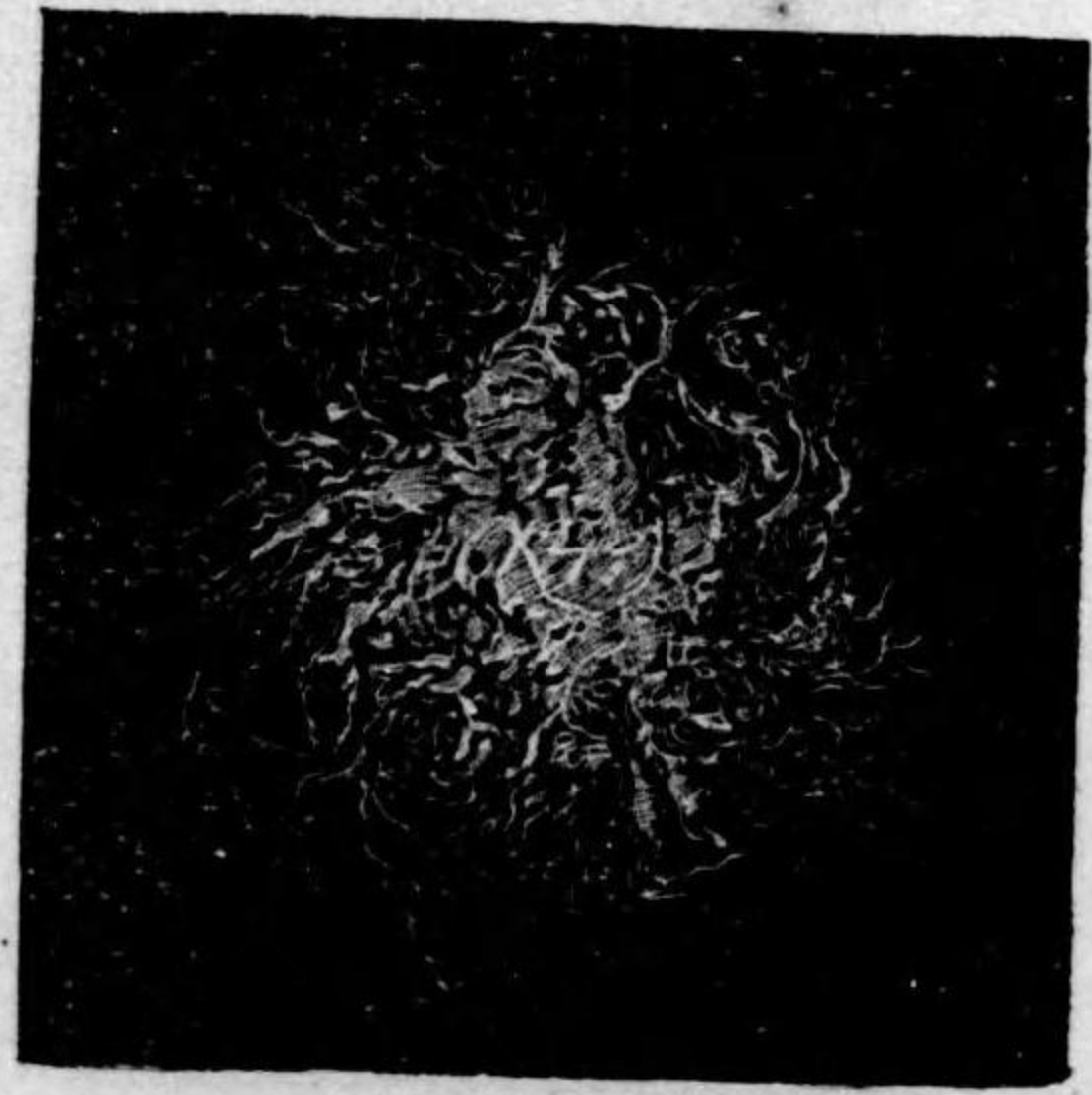


圖一十第



惡性水腫桿菌ノ鞭毛辮  
(凝菜培養、千五百倍擴大)

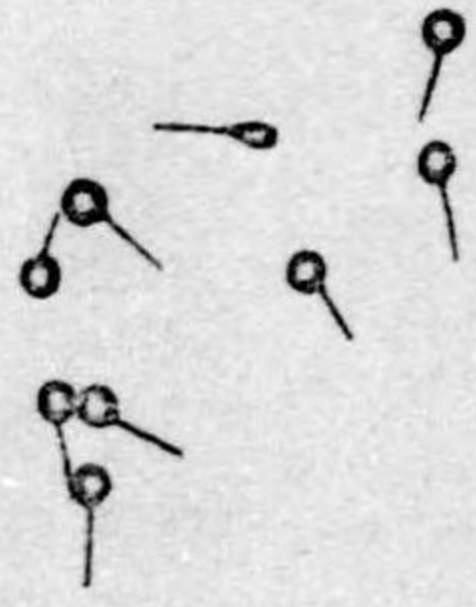
圖二十第



惡性水腫桿菌ノ  
二%葡萄糖凝菜  
平板上ニ於ケル  
表在性聚落  
(體温ニテ六十  
時間培養、七十  
倍擴大)

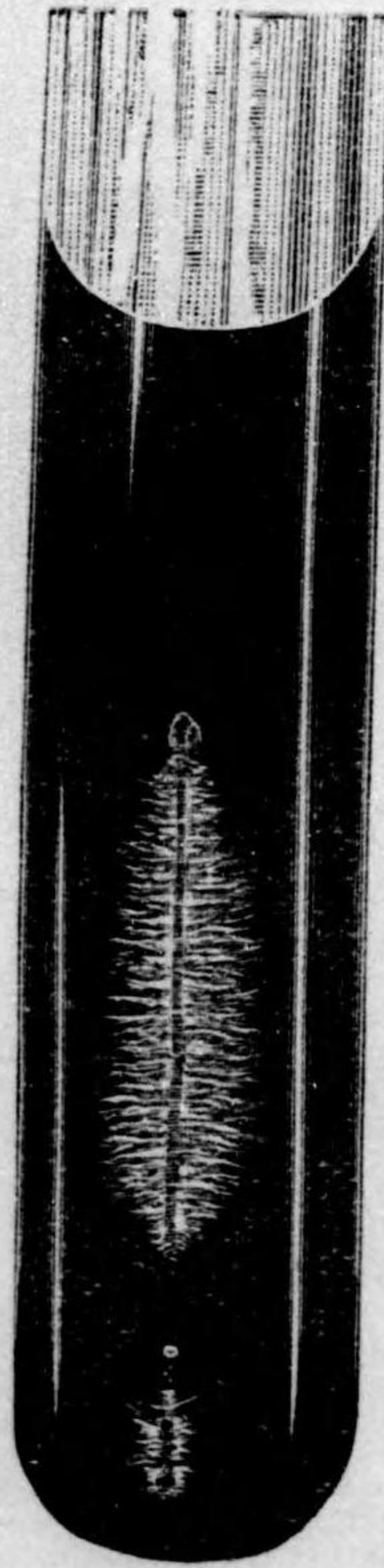
破傷風桿菌(千倍擴大)

圖三十第

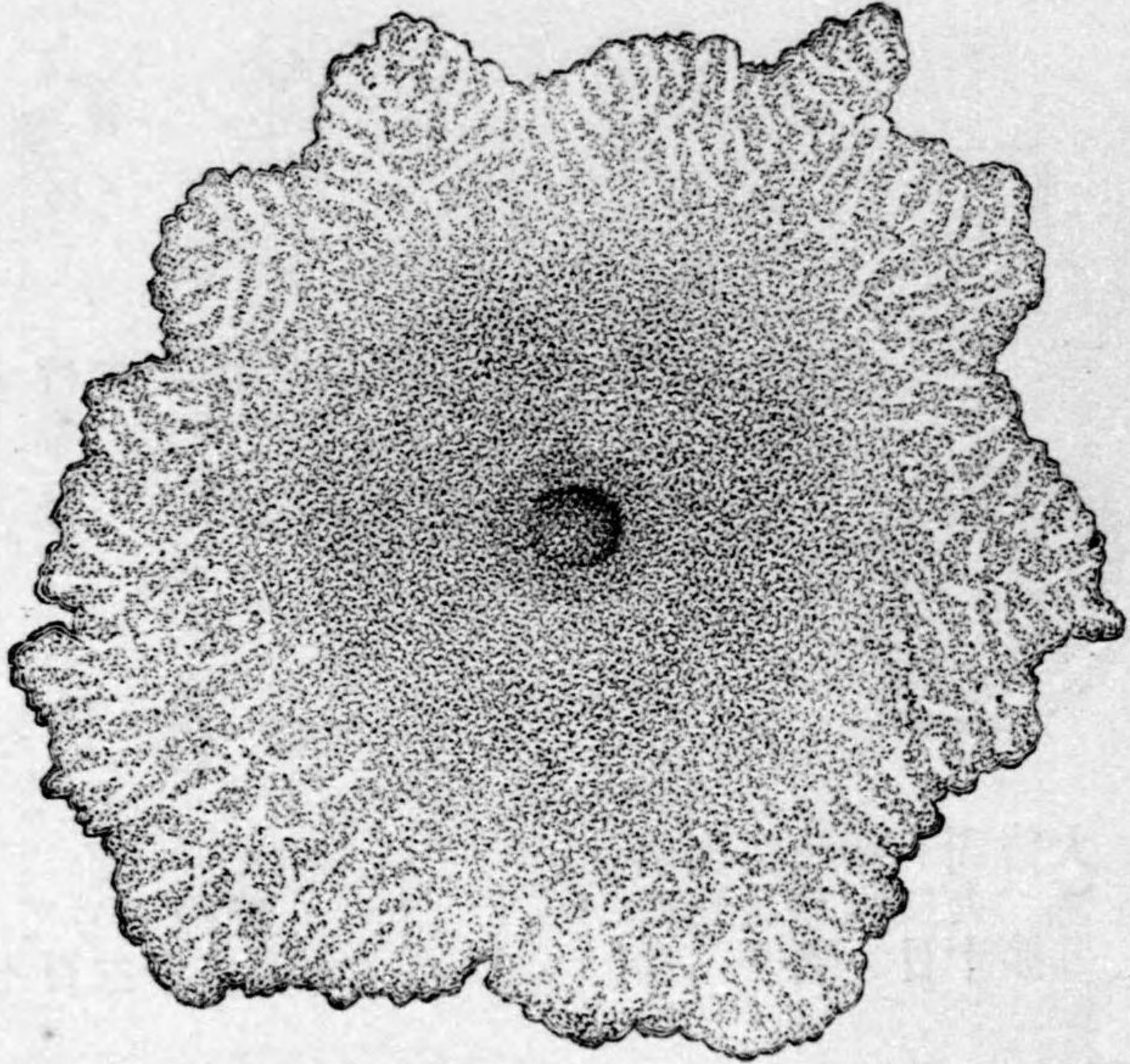


破傷風桿菌阿膠穿刺(六日間培養、自然大)

圖四十第

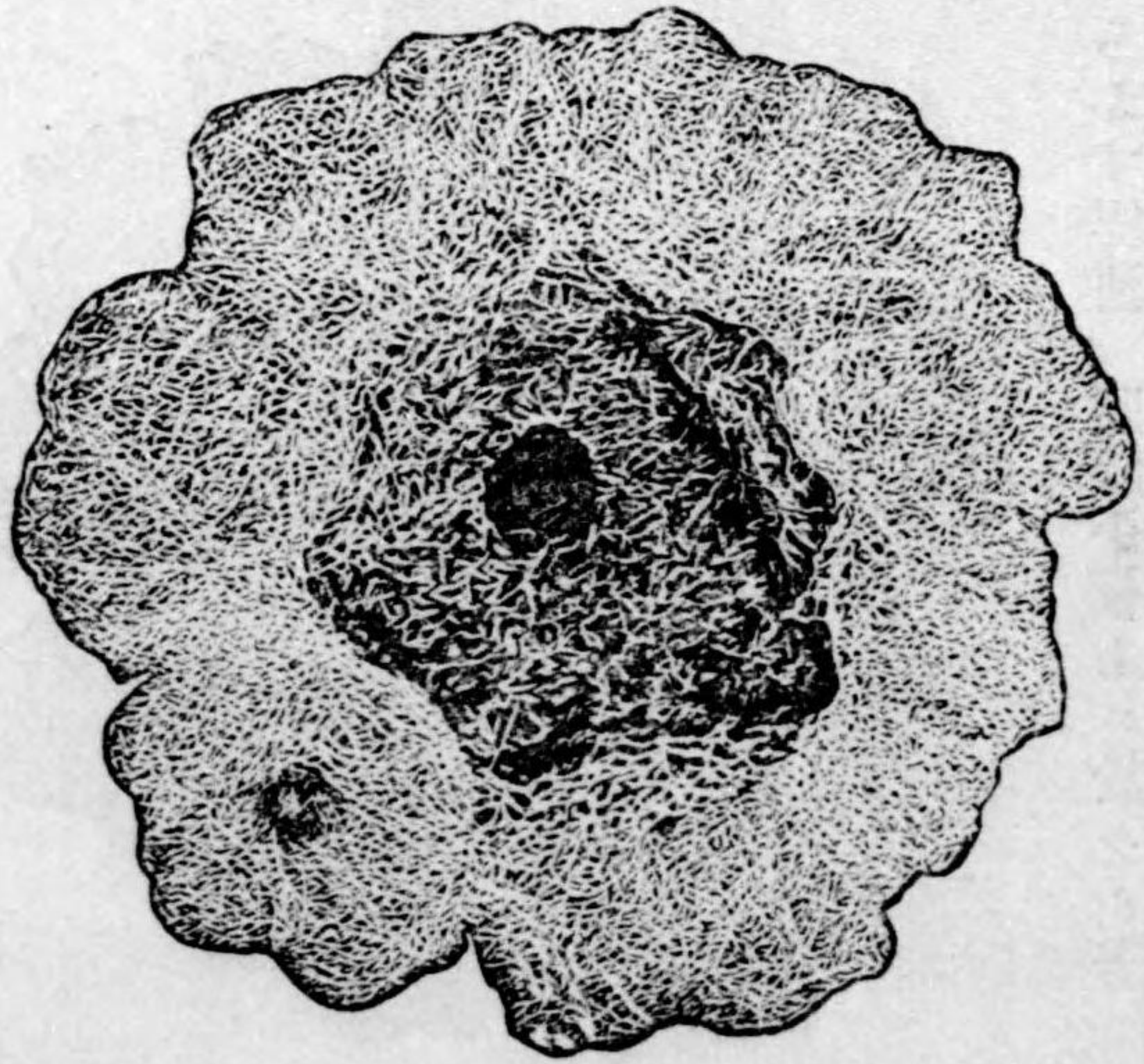


圖五十第



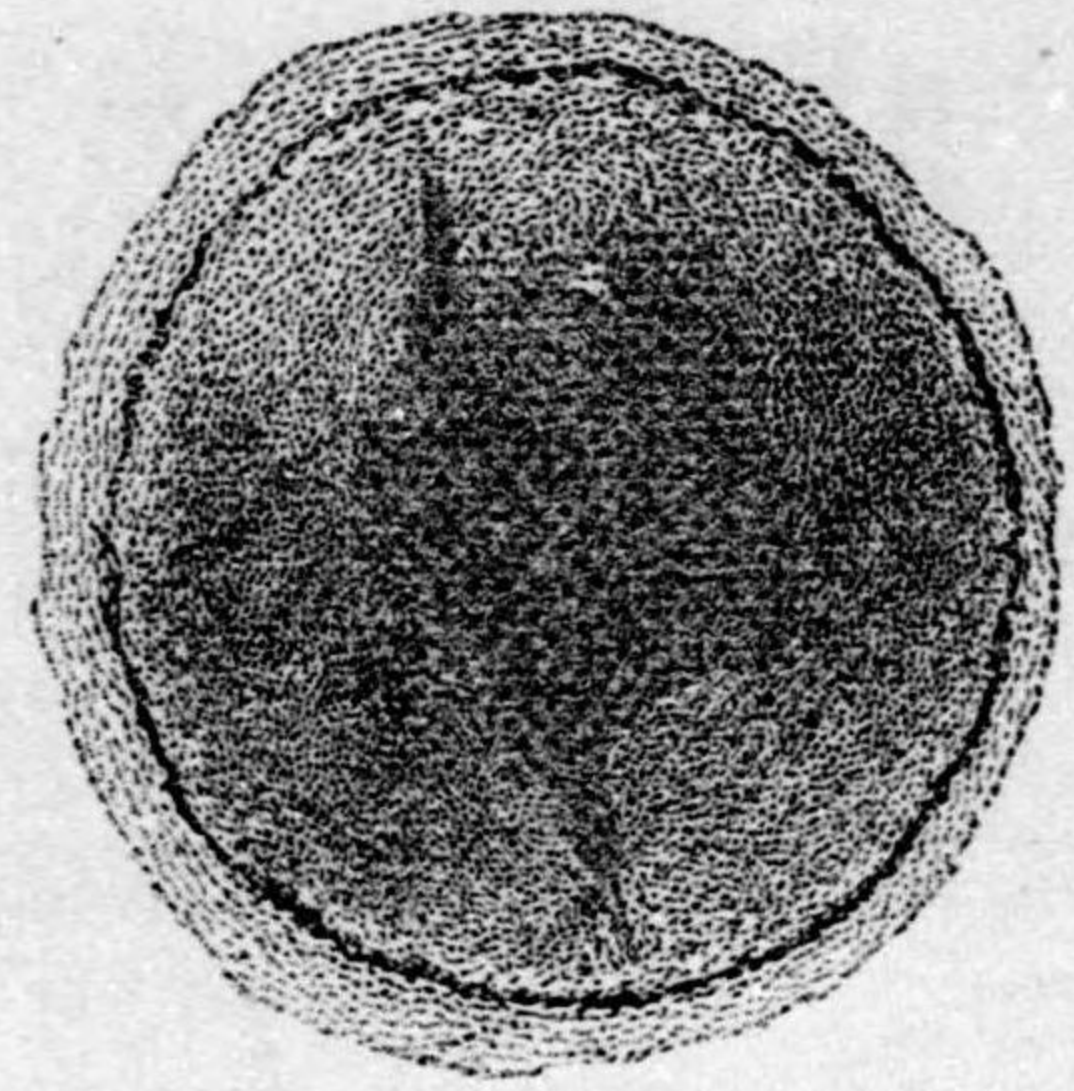
普通大腸桿菌ノ阿膠平板上ニ於ケル表在  
性聚落(二日間培養、七十倍擴大)

第十六圖



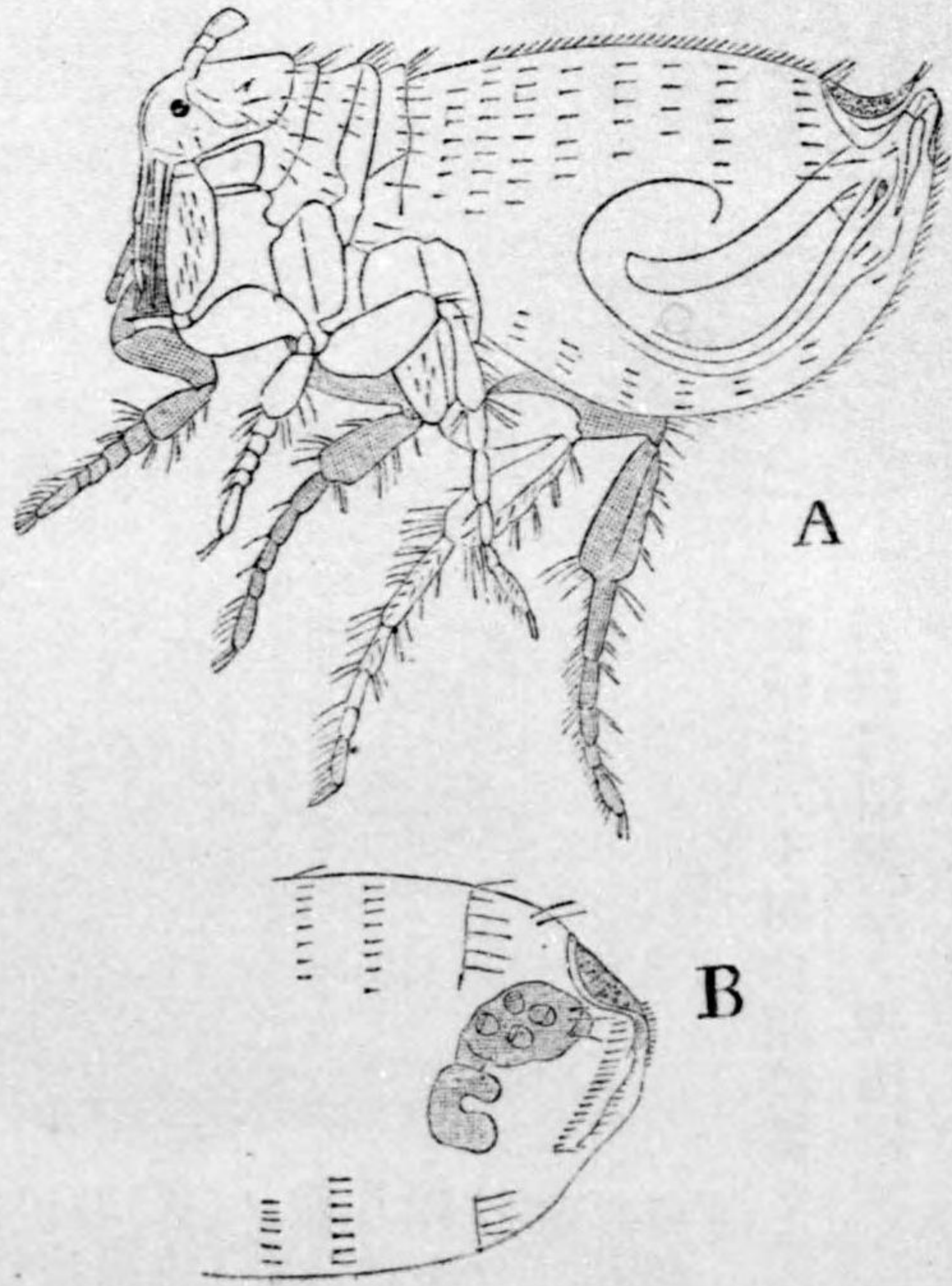
赤痢桿菌ノ阿膠平板上ニ於ケル表在性  
聚落(四日間培養、二十倍擴大)





第二十一圖

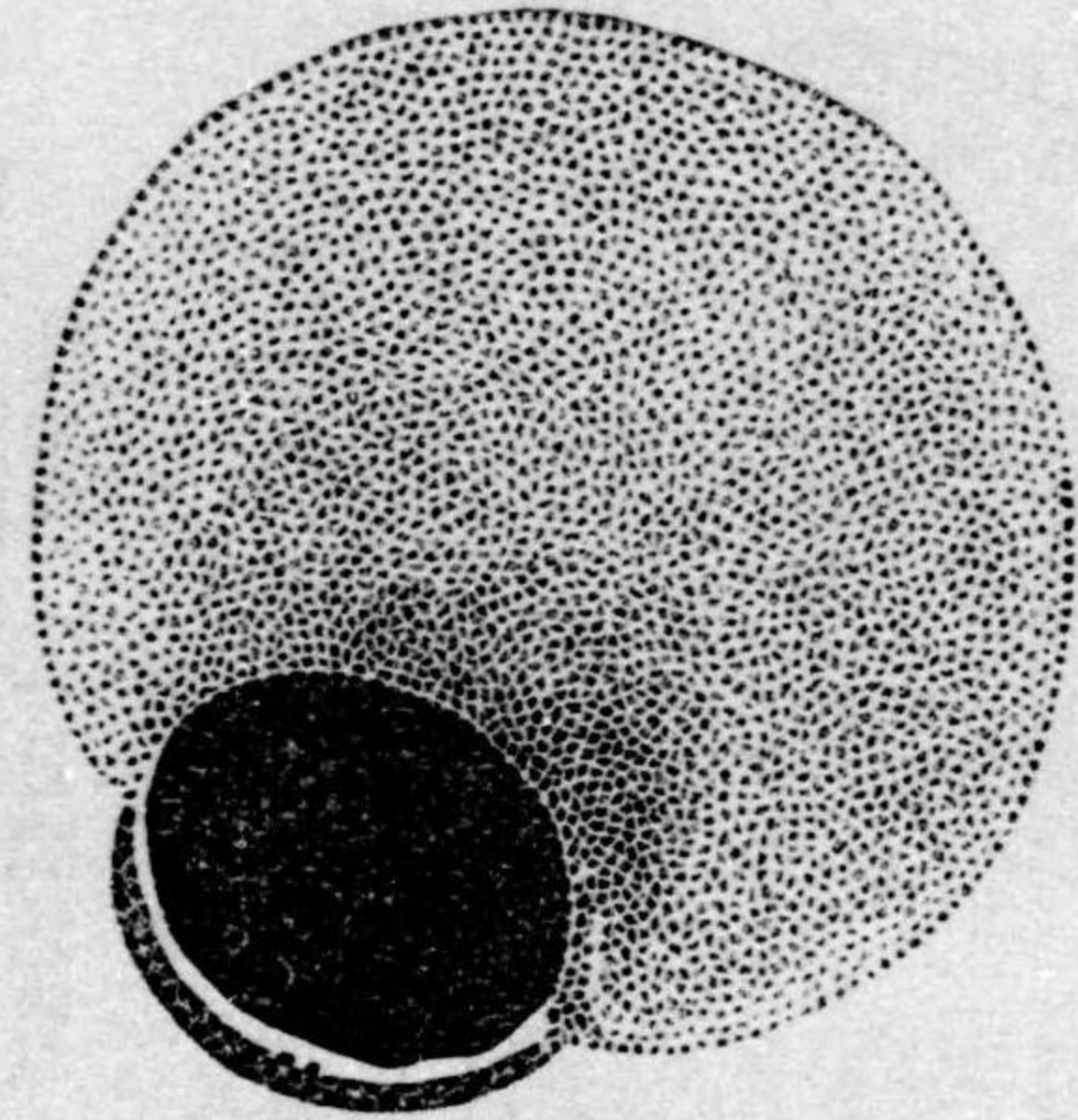
へすみ桿菌ノぐりせりん阿膠  
平板上ニ於ケル表在性聚落  
(六日間培養、百二十五倍擴大)



第二十二圖

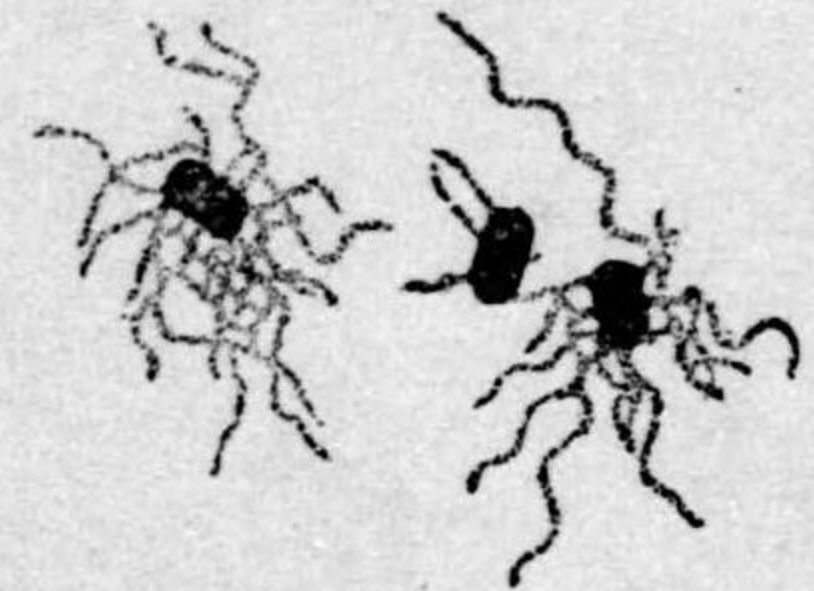
鼠蚤 (Pulex philippinensis Herzog)ノ雄(A)  
及雌ノ後體(B)

圖十二第



肺炎桿菌ノ聚落  
(凝板培養平)  
體温ニ於テ  
九三日間  
大倍、九  
擴十日

ちふす桿菌 阿膠平板上ニ於ケル表  
在性聚落(二日間培養、七十倍擴大)



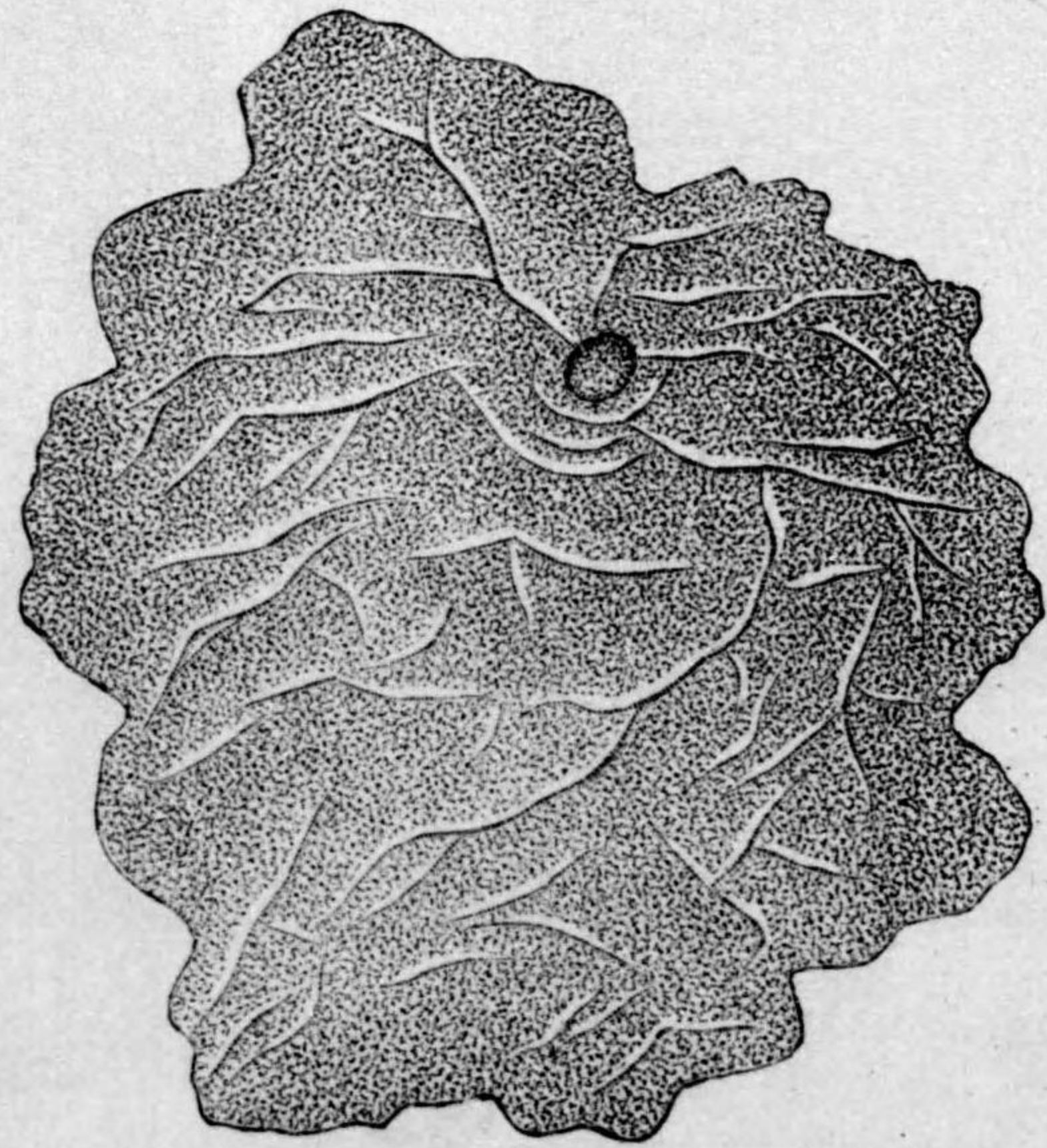
第十七圖

(大擴倍百千)菌桿すふち



第十九圖

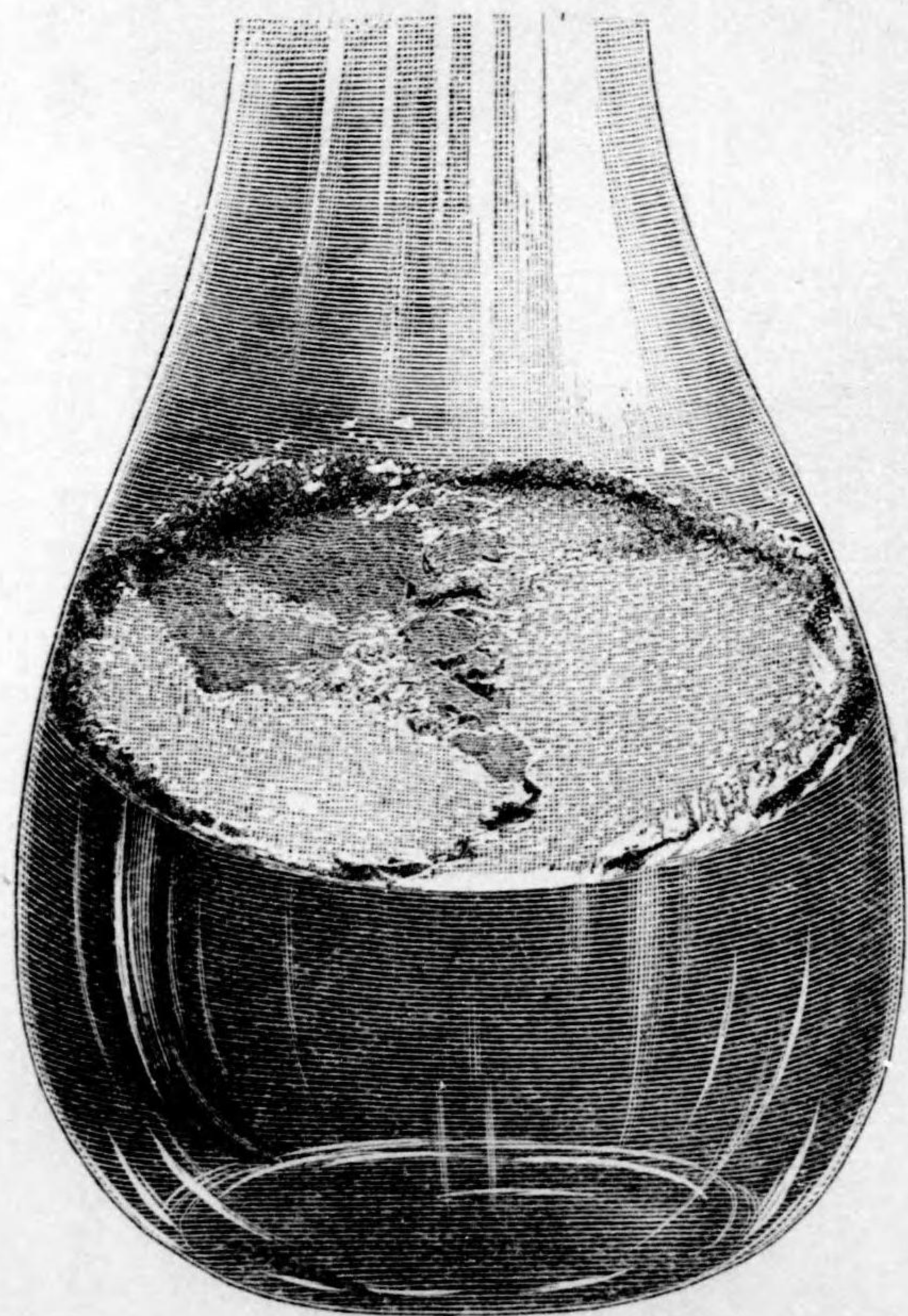
菌桿一りてぶち  
(大擴倍十三百七)



第十八圖



圖七十二第



養培汁肉んこぶへんりせりぐノ菌桿核結  
(大然自 間日四十二 溫體)

圖六十二第



結核桿菌ノぐ  
りせりん凝菜  
劃線培養  
(體溫、四週  
間、自然大)

圖三十二第

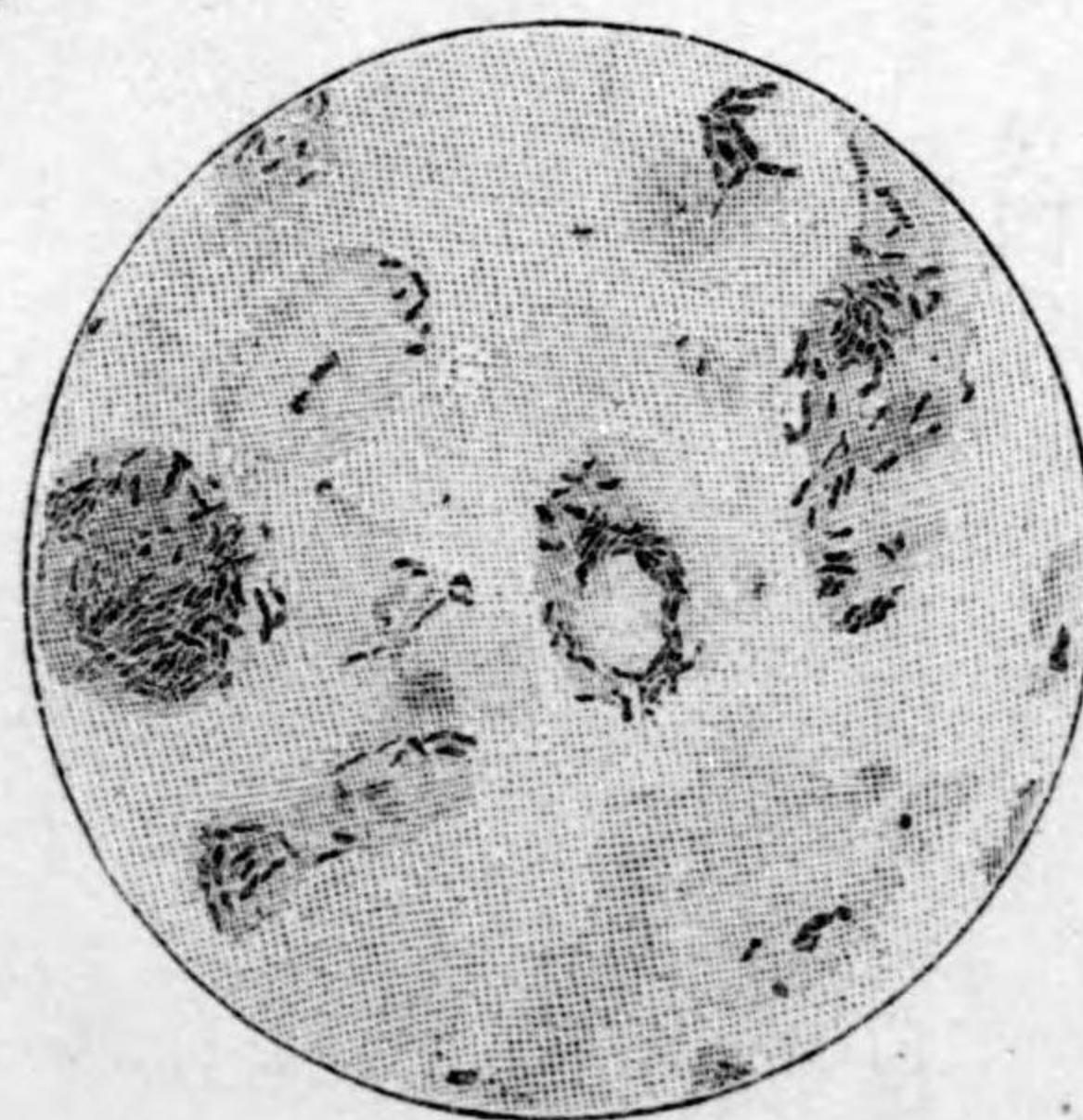


結核桿菌(略痰塗  
抹標本千倍擴大)

圖五十二第



圖四十二第

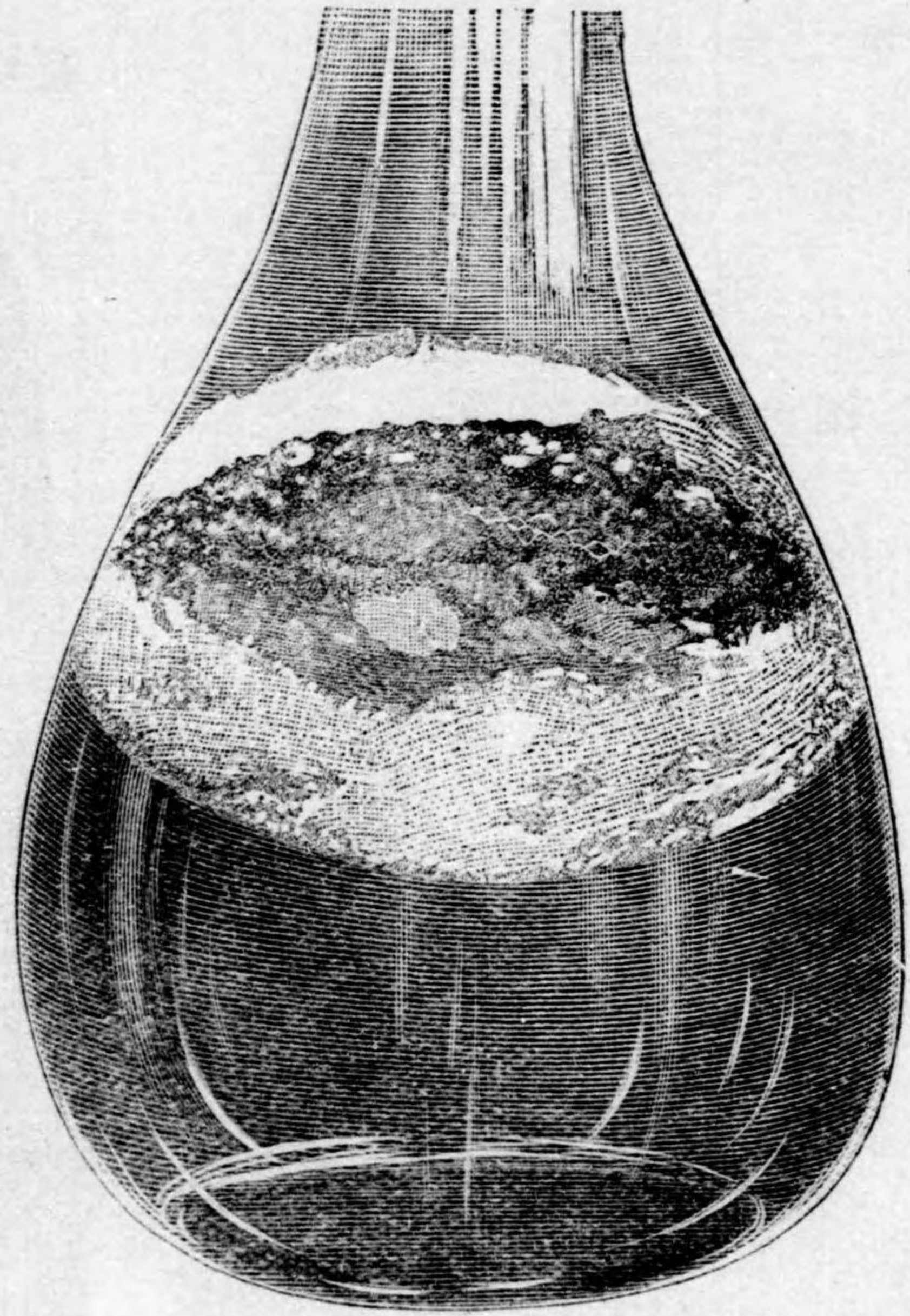


本標片截ノ(馬)腺巴淋性核結  
(大擴倍百五)

血清上二十四日間培養セル  
結核桿菌聚落ノ押捺標本  
(千倍擴大)

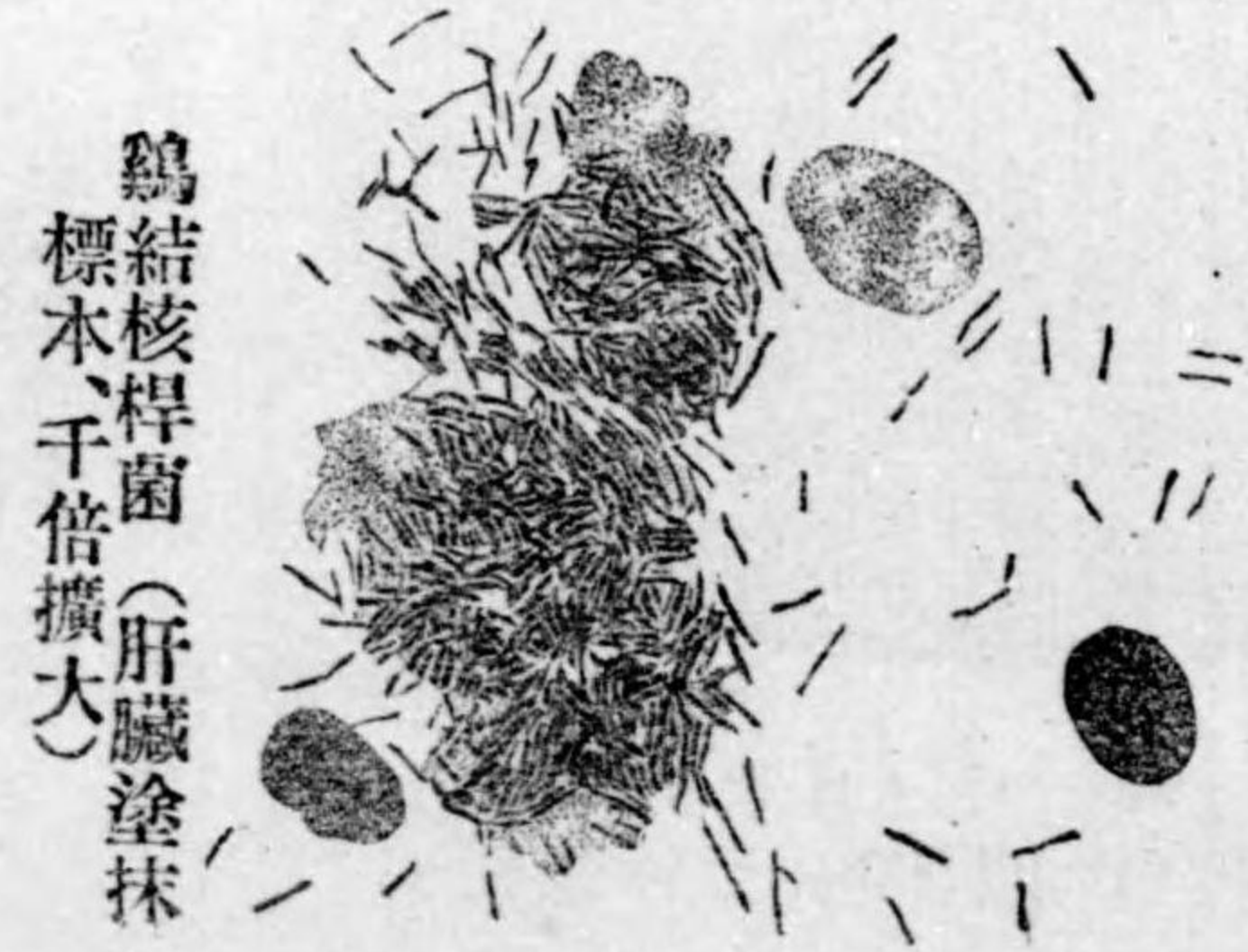


第二十九圖



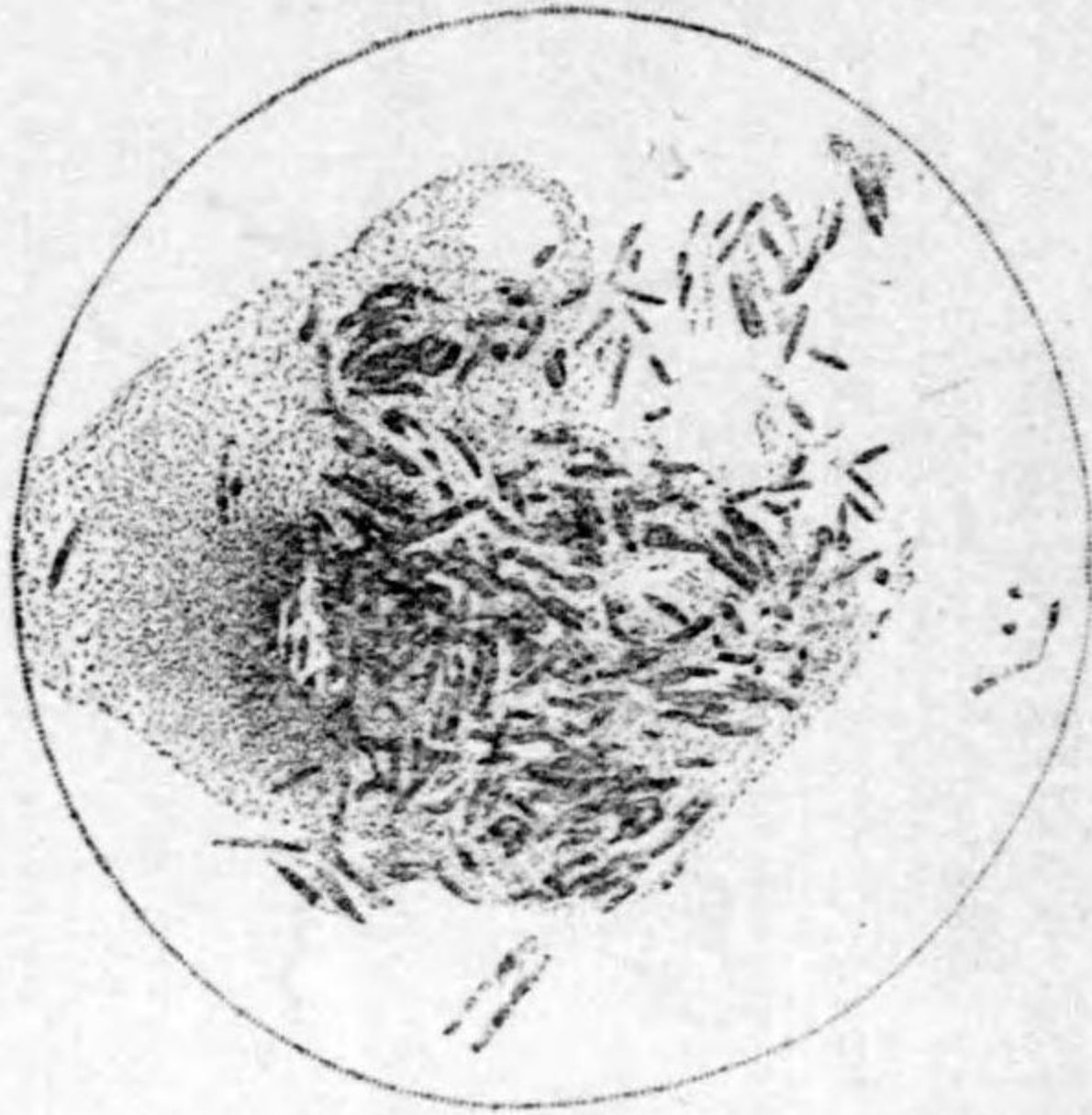
鶏結核桿菌ノぐりせりんへぶごん肉汁培養  
(體温、二十四日間、自然大)

第二十八圖



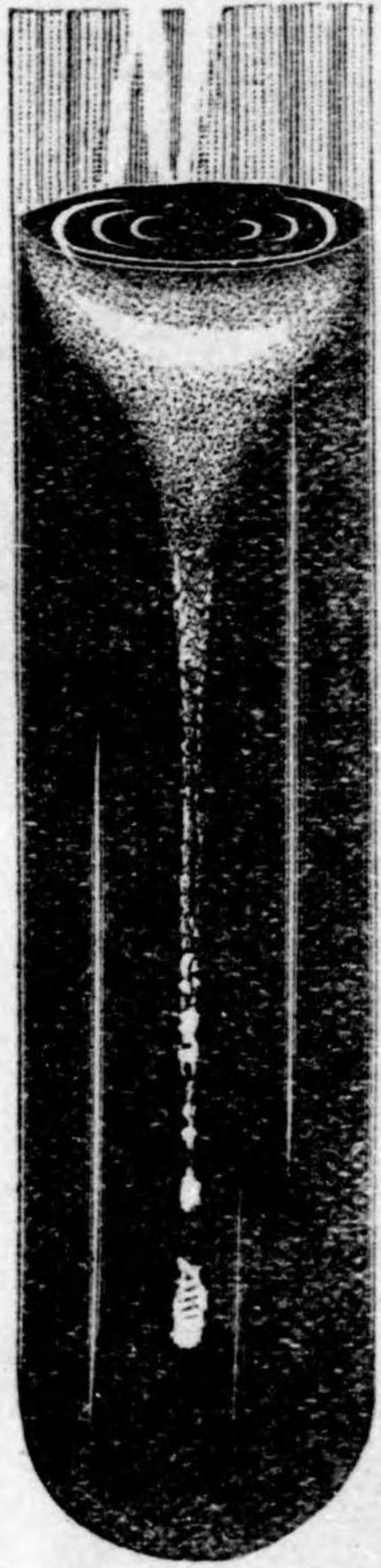
鶏結核桿菌(肝臟塗抹  
標本、千倍擴大)

第三十三圖



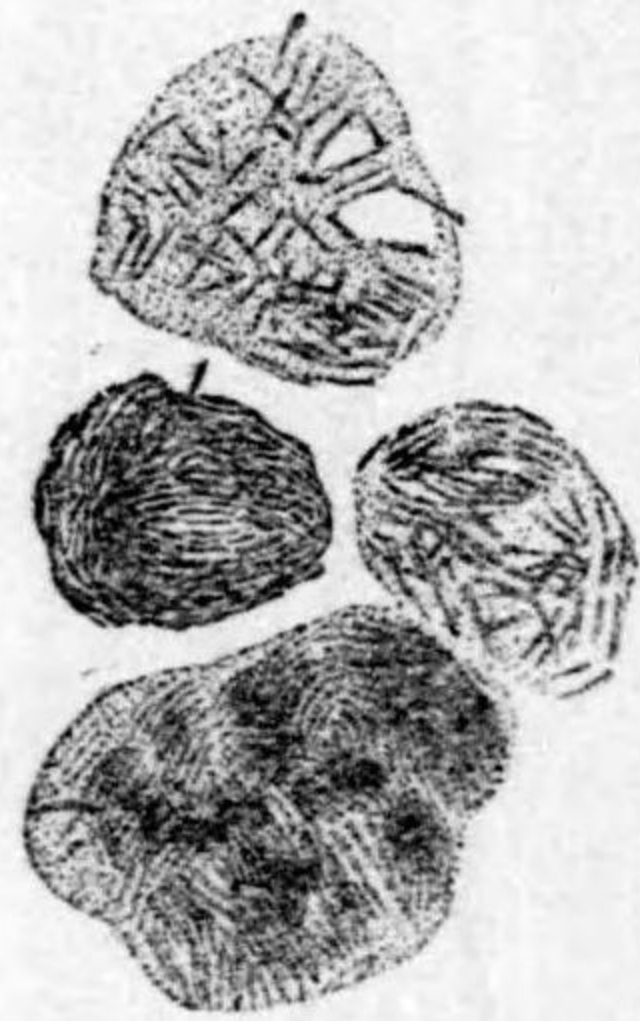
癩桿菌(皮膚結節塗抹標  
本、千倍擴大)

第三十三圖



これら弧菌阿膠穿刺(八日間培養、自然大)

第三十一圖



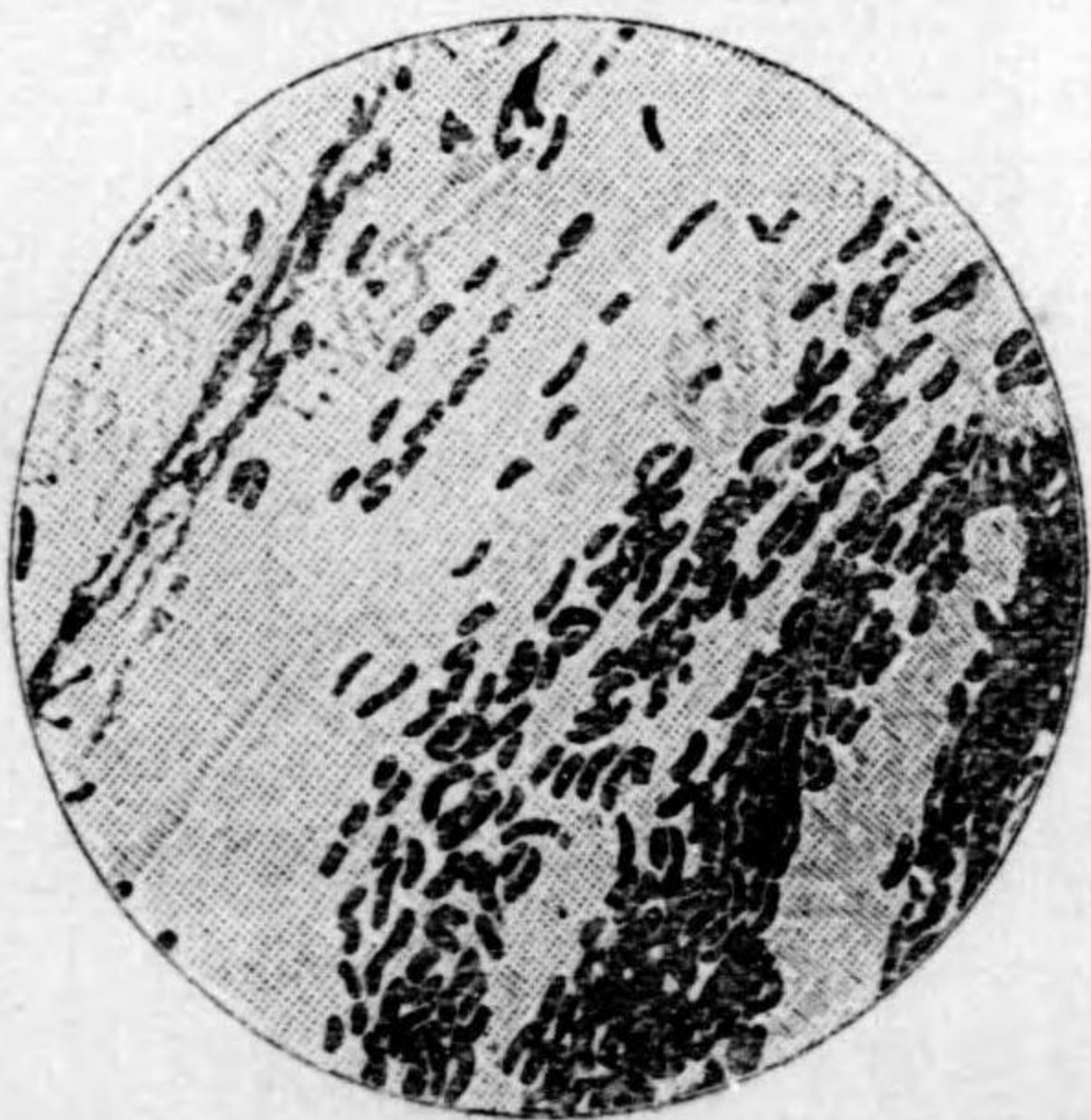
癩桿菌鼻汁塗抹標  
本(千倍擴大)

第三十四圖



これら弧菌  
ノ阿膠平板  
上ニ於ケル  
表在性聚落  
(二日間培  
養、六十  
倍擴大)

第三十二圖



これら弧菌(糞便塗抹標本  
八百倍擴大)



質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効	質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効
質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効	質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効
質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効	質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効
質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効	質疑者 之姓名	質疑券 出版後二ヶ年間 有効

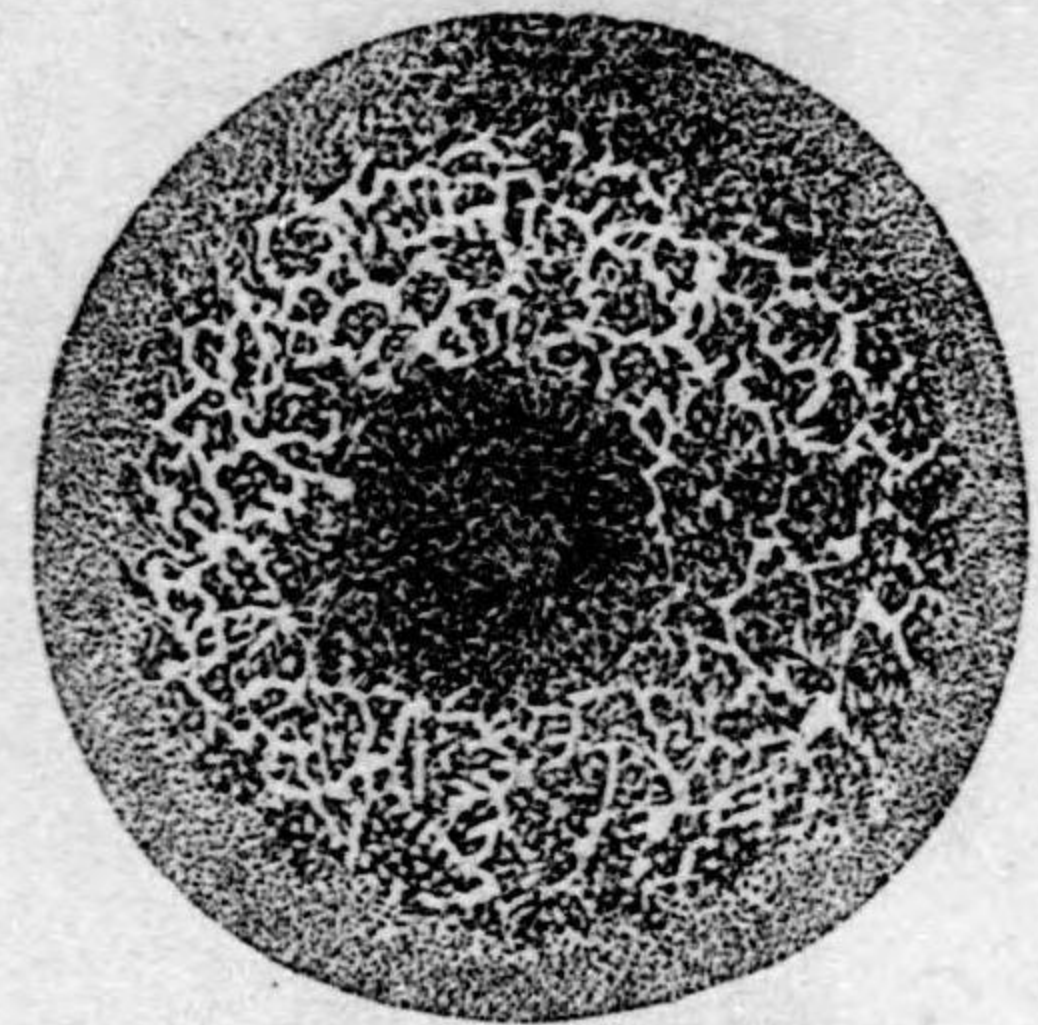
醫學上ノ質疑ヲナサムト欲スル士ハ左ノ質疑券ヲ切り取り姓名ヲ記入シ一件毎ニ其一枚及返信用郵便切手ヲ添付シ申込ムベシサレバ本社ハ斯道ノ大家ノ説ヲ報知スルニ吝ナラザルベシ但シ姓名ノ記入ナキモノハ無効トス

圖七十三第



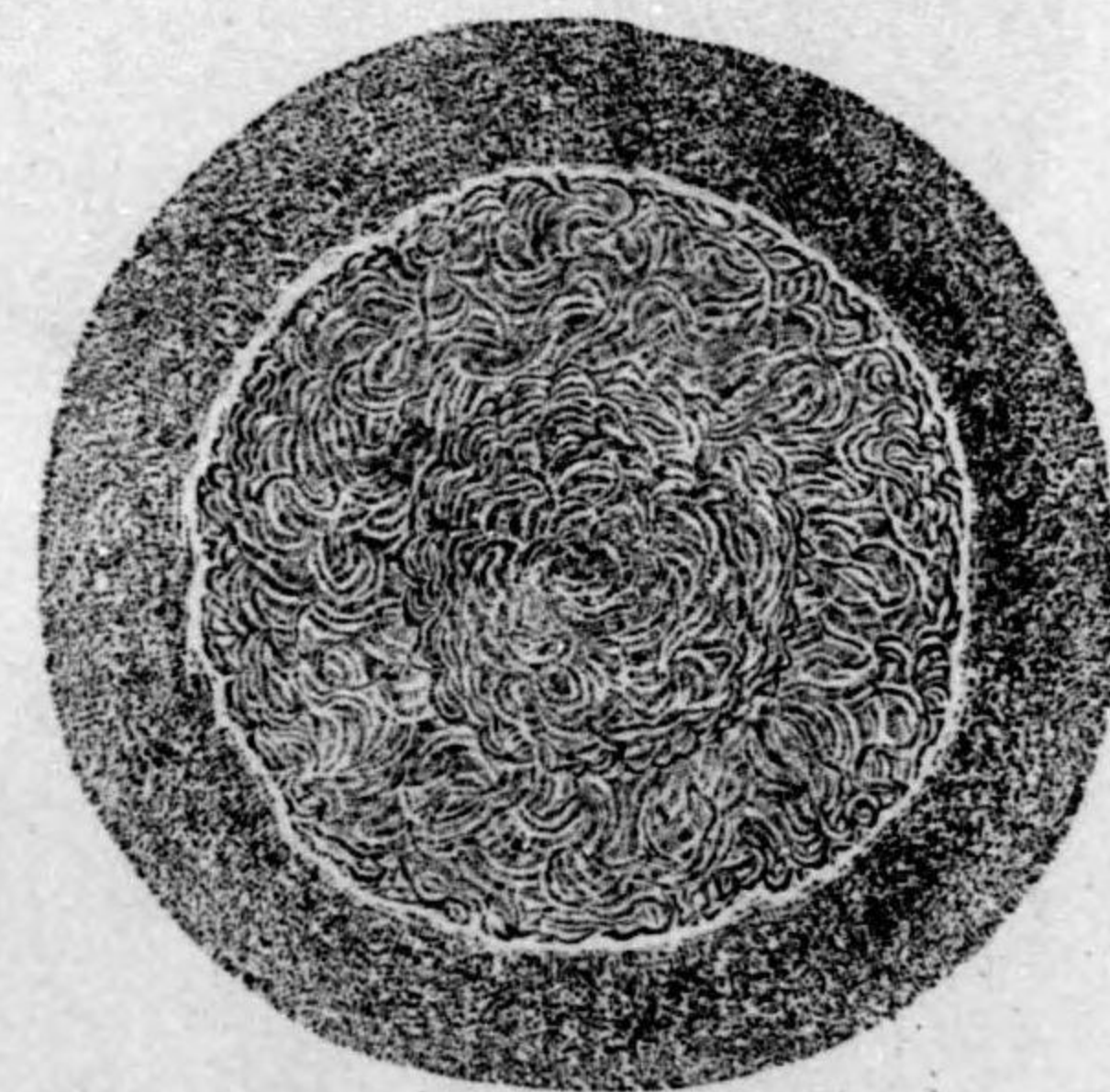
おーべるまいえる波菌  
(血液塗抹標本、千倍擴大)

圖五十三第



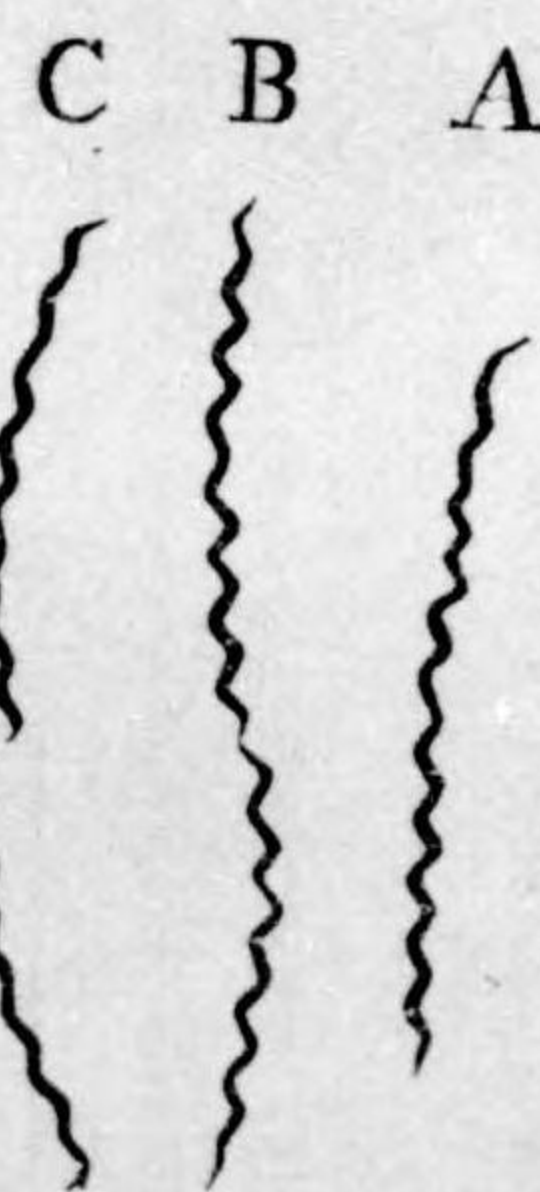
ニ上板平膠阿ノ菌弧られニ  
落聚性在表ルケ於  
(大擴倍十六 養培間日五)

圖六十三第



ニ上板平膠阿ノ菌弧られニ  
落聚性在表ルケ於  
(大擴倍十六、養培間日八)

圖八十三第



梅毒波菌ノ分裂狀態



- |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 質疑一件ニ付キ記<br>名質疑券一枚及返<br>信用參錢郵便切手<br>一枚ヲ添ユベシ | 質疑一件ニ付キ記<br>名質疑券一枚及返<br>信用參錢郵便切手<br>一枚ヲ添ユベシ | 質疑一件ニ付キ記<br>名質疑券一枚及返<br>信用參錢郵便切手<br>一枚ヲ添ユベシ | 質疑一件ニ付キ記<br>名質疑券一枚及返<br>信用參錢郵便切手<br>一枚ヲ添ユベシ | 質疑一件ニ付キ記<br>名質疑券一枚及返<br>信用參錢郵便切手<br>一枚ヲ添ユベシ | 質疑一件ニ付キ記<br>名質疑券一枚及返<br>信用參錢郵便切手<br>一枚ヲ添ユベシ |
| 細菌學時報社                                      | 細菌學時報社                                      | 細菌學時報社                                      | 細菌學時報社                                      | 細菌學時報社                                      | 細菌學時報社                                      |

松下博士著書目錄

松下博士著書目錄

獨文 細菌診斷學

全一冊 六百九十頁 代假綴一冊七圓五十錢  
十七圖挿入 價製本一冊八圓五十錢

Bacteriologische Diagnostik, zum Gebrauche in den bacteriologischen Laboratorien und zum Selbstunterrichte, für Aerzte, Tierärzte und Botaniker.

出版店 Gustav Fischer, Jena in Germany

發賣店 東京市本郷湯島切通坂町南江堂及金原書店

本書ニ對スル獨乙國雜誌ノ評論

ばうむがるてん氏年報 あいぜんべるぐ氏ハ嘗テ細菌診斷學ヲ著述シ短日月ノ間ニ  
 第三版迄發行セシガ其後十年間此種ノ書世ニ出デザリキ今松下氏ハ類似セル分類法排  
 列法其他記載法ニ由テ著述セリ氏ハ各種細菌ノ性質ヲ研究シ太ク適當ナル方法ノ下ニ  
 之レヲ分類シ印刷上ノ排列亦太ク善シ著者ノ勉勵ト功績ハ稱譽スベク實ニ此書ハ學海  
 ノ進歩ヲ裨益シ且ツ吾人ノ希望ヲ滿タシム著者ノ此書ヲ著ハスヤ「各細菌ノ性質ヲ簡  
 單ニ述ベ且ツ迅速ニ各種細菌ノ診斷ヲ下シ得ル」ノ目的ナリキ予ハ該書ノ能ク其目的  
 ニ適合スルコトヲ信シテ疑ハザルモノナリ Baumgarten  
 Hygienische Rundschau 該書ハ表中ニ一千三百二十五種ノ細菌ヲ其運動、芽胞、  
 酸素要否、ぐらむ氏染色法、阿膠溶否、牛乳凝否、瓦斯、硫化水素、いんじーる、色  
 素等ノ形成、發育狀態、其他所在、病的非病的等ノ性質ニ由テ巧ニ分類シ其主要性質



及引用書ヲ記述セルモノナリ  
 其分類法ハ先ツ大別シテ「溶解性」「不溶解性」及「二十度以下ニ於テ不發育性」ノ三トナ  
 シ其各種ノ下ニ酸素ノ要否アリ更ニ其下ニ運動ノ有無キテ芽胞ノ有無ニ分ルルニ由テ染色  
 法ノ拒否、色素形成如何終リニ其種屬ニ由テ之ヲ小別セリ此ノ如キ表五百六十五頁ア  
 リテ次キテ其細菌ノ所在地（水、空氣、土地、塵埃、泥、腐敗物質、植物、魚、鳥、  
 哺乳動物、酢、麥酒及酒、牛乳、乾酪乳酪、羅漢及腸詰、人膚、尿、便、鼻汁、唾液、  
 略痰、膿汁、眼耳、生殖器、血液及內臟）及ビ其病的非病的ニ由テ區別シ細菌ノ名稱  
 ナ記述セルコト二十頁 次ギテ主要細菌ノ診斷早手引ヲ附シ其種屬及表ノ分類法ニ  
 由テ之ヲ記述セリ此項七十三頁 終リニいろは順索引アリ  
 方今細菌診斷法獨ホ不完全ニシテ爲メニ誤診ヲ來スコト寡カラズ且ツ又診斷學ノ著述  
 甚ダ僅少ニシテ學者ヲシテ迷惑セシムルコト頗々、著者ハ茲ニ見ル處アリテ多數ノ文  
 獻ヨリ摘要シ殊ニ疑ハシキ個條ハ自ラ之ヲ檢査シテ該書ヲ發行セリ是レ即チ本書ノ價  
 値アル所以ナリ Carl Günther (Berlin)  
 ○○○○○○  
 民顯醫事周報 (前略)著者ノみぐら氏ノ如ク鞭毛ノ如何ニ由テ分類セザリシハ何ヨ  
 リモ幸ヒナリ何トナレバみぐら氏ノ分類法ハ自然ヲ害スレバナリ (中略)著者ノ勞大  
 ナリト謂フベシ吾人ハ方今細菌ノ診斷ニ困難ヲ感シツ、アルノ際此著ヲ得タリ感謝セ  
 ズンバアルベカラズ (中略)著者ハ其記載セル細菌ノ三分二ヲ自ラ檢査シ其他ハ文獻  
 ヨリ摘要セリ從來報告セラレタル細菌ノ種類太々多シト雖ドモ此等各種ノ細菌ヲ列記  
 セルハ唯ダみぐら氏ノ著述ノ外絶無ナリシガ今ヤ諸種ノ希望ヲ容レタル該書ヲ得テ大

ニ満足セリ該書ハ診斷ニ方リテ甚ダ必要ニシテ學者宜シク座右ニ其一本ヲ供スベシ云  
 々 R. O. Neumann-Kiel.

獨文 微生物學講義

Vorlesungen über die Mikroorganismen

品切

獨文 免疫學講義

Vorlesungen über die Immunitätslehre

品切

免疫學及傳染病論

品切

寄生物性病論第一卷

檢術 查篇

四六倍版總紙數七百六十六頁  
 圖數百八十六 着色版數葉  
 製本堅牢優美 背皮金文字入  
 一冊代金四圓(郵稅共)

寄生物性病論第二卷

品切



寄生物性病論第三卷

寄生物性病論補遺

寄生物性病論第四卷

寄生物性病論第五卷

寄生物診斷學

疫癘

寄動 四六倍版總紙數千四百二十二頁石  
版圖五十八葉ころたいぶ版二葉  
木版圖九百九十九 總圖數三千  
三百餘、製本堅牢背皮金文字入二  
冊代金七圓(郵稅共)

四六倍版總紙數七百六十頁  
木版圖千三百五十個製本前  
二同シ一冊代金四圓(郵稅共)

免疫學 印刷中

未刊行

四六倍版總紙數八百四頁  
木版圖千三百五十一個  
製本堅牢優美總くるす金文字入  
一冊代金四圓五十錢(郵稅三十錢)

一冊代金一圓五十錢

大正二年二月三日印刷  
大正二年二月六日發行

正價金壹圓五拾錢

編纂者

京都市岡崎町二十四番地  
近藤國彦

印刷者

神戸市吾妻通三丁目十七番屋敷  
菅間徳次郎

印刷所

神戸市吾妻通三丁目十七番屋敷  
福音印刷合資會社神戸支店

不許  
複製

發行所

京都市岡崎町二十四番地

細菌學時報社

振替 大阪七一二四番  
口座







終

